

平成27年度 地域内フィーダー系統確保維持事業一覧

都県	協議会名等	事業者名	乗合バス型 系統数	デマンド型 系統数	車両減価償却 費等車両数	
茨城	古河市公共交通活性化会議	総和中央交通(株)		1		
		三和交通(有)		1		
		諸川タクシー(有)		1		
	日立市公共交通会議	NPO法人助け合いなかさと			1	
		日立電鉄交通サービス(株)	3			
	城里町新交通システム運行委員会	茨城交通(株)	2			
	牛久市地域公共交通会議	関東鉄道(株)	5		3	
	常総市公共交通活性化協議会	関東鉄道南タクシー(株)			1	
		(有)絹西タクシー			1	
		野村タクシー(有)			1	
		松並タクシー(有)			1	
		(有)三妻タクシー			1	
		水海道ハイヤー(有)			1	
		石塚タクシー(有)			1	
	土浦市地域公共交通活性化協議会	関東鉄道(株)	2			
	龍ヶ崎市地域公共交通会議	(有)佐貫タクシー			1	
	かすみがうら市地域公共交通会議	関東グリーンバス(株)	1			
	つくばみらい市地域公共交通会議	守谷タクシー(有)			1	
		(有)常陽観光タクシー			1	
		さくら住宅(株)			1	
(有)新町タクシー				1		
日本貿易運輸(株)				1		
五霞町地域公共交通会議	朝日自動車(株)	3				
栃木	佐野市地域公共交通協議会	佐野市	7		1	
	宇都宮市地域公共交通会議	泉タクシー(株)		4		
		アサヒタクシー(株)		2		
		(有)雀タクシー		1		
	鹿沼市地域公共交通活性化協議会	鹿沼合同タクシー(株)		6		
		平和タクシー(有)		1		
	足利市地域公共交通活性化協議会	足利タクシー(株)	1			
	栃木市地域公共交通会議	栃木交通(有)			1	
		千代田タクシー(有)			2	
		栃木合同タクシー(株)			2	
		栃南タクシー(有)			1	
富士タクシー(有)				2		
(有)大平タクシー				2		

都県	協議会名等	事業者名	乗合バス型 系統数	デマンド型 系統数	車両減価償却 費等車両数	
栃木	栃木市地域公共交通会議	(有)都賀タクシー			1	
		(株)新交通			1	
		藤岡タクシー(株)			2	
		岩舟タクシー(株)			2	
	真岡市	安全タクシー(株)			2	
		大越観光バス(株)	2			
		芳南交通(株)			1	
		(有)二宮タクシー			1	
	大田原市地域公共交通会議	潮田タクシー(株)			1	
		大田原市	1			
		山和タクシー(有)			1	
	那須烏山市地域公共交通会議	(有)大金タクシー			1	
		烏山観光タクシー			1	
	さくら市地域公共交通会議	烏山合同タクシー			1	
		さくらタクシー(有)			1	
	小山市地域公共交通会議	(有)誠タクシー			1	
		大山タクシー(有)	3		3	
		(株)小山中央観光バス	3			
		日光市地域公共交通会議	日光線通運(株)			3
		下野市地域公共交通会議	関東交通(株)			3
茂木町地域公共交通会議	(株)柏タクシー			4		
市貝町地域公共交通会議	(株)柏タクシー			1		
益子町地域公共交通会議	益子タクシー(有)			1		
	新光タクシー(有)			1		
	七井タクシー			1		
壬生町地域公共交通会議	野口タクシー(有)			1		
	みどり交通(有)			1		
	壬生観光自動車(有)			1		
上三川町地域公共交通会議	壬生タクシー(有)			1		
	関東交通(株)			1		
野木町公共交通活性化会議	小山合同タクシー(株)			1		
	(有)野木タクシー			1		
那須町地域公共交通活性化協議会	那須合同自動車(株)			3		
群馬	桐生市地域公共交通会議	(株)沼田屋タクシー			1	
	甘楽町地域公共交通会議	(有)昭和タクシー			1	
埼玉	熊谷市	国際十王交通(株)	1		1	

平成27年度 地域内フィーダー系統確保維持事業一覧

都県	協議会名等	事業者名	乗合バス型 系統数	デマンド型 系統数	車両減価償却 費等車両数
埼玉	加須市地域公共交通会議	朝日自動車(株)	1		
		加須タクシー(株)		2	
		騎西タクシー(有)		1	
	本庄市交通政策協議会	本庄観光(株)	1		
		朝日自動車(株)		4	
	深谷市地域公共交通会議	(株)協同観光バス	6		
		花園観光バス(株)		2	2
		深谷タクシー(有)		3	
	白岡市地域公共交通確保維持改善協議会	昭和タクシー(有)		1	
	鳩山町地域公共交通会議	(株)越生タクシー		1	
		川越観光自動車(株)	1		
	ときがわ町公共交通活性化協議会	イーグルバス(株)		2	
	小鹿野町公共交通会議	秩父丸通タクシー(株)		1	
	寄居町地域公共交通活性化協議会	(株)桜交通		1	
大信観光花園(有)			1		
(有)本間タクシー			1		
毛呂山町地域公共交通活性化協議会	(株)越生タクシー	1			
千葉	茂原市	(有)東タクシー		1	
		小湊鐵道(株)	2		
		小湊鐵道(株)	6		
	いすみ市地域公共交通活性化協議会	(株)HMC東京	7		
	旭市地域公共交通会議	千葉交通(株)	6		
	山武市地域公共交通活性化協議会	ちばフラワーバス(株)	1		
		房総自動車(有)		3	
		両総観光(株)		2	
		(有)松尾タクシー		2	
	香取市地域公共交通協議会	千葉交通(株)	2		
		(株)千葉交タクシー		1	
	市原市地域公共交通活性化協議会	小湊鐵道(株)	5		
	君津市地域公共交通会議	大新東(株)		2	
	印西市地域公共交通活性化協議会	ちばレインボーバス(株)	1		
東金市地域公共交通会議	東金タクシー(有)		1		
	南総タクシー(有)		1		
	関口タクシー(有)		1		
	小川タクシー(有)		1		
勝浦市地域公共交通活性化協議会	小湊鐵道(株)		1		

都県	協議会名等	事業者名	乗合バス型 系統数	デマンド型 系統数	車両減価償却 費等車両数
千葉	大網白里市地域公共交通活性化協議会	小湊鐵道(株)	2		
	長南町地域公共交通活性化協議会	(有)長南タクシー		1	
		ゆたか自動車(株)		1	
	御宿町地域公共交通会議	小湊鐵道(株)		1	
	横芝光町	(有)横芝タクシー		1	
		房総自動車(有)		1	
鴨川市地域公共交通活性化協議会	両総観光(株)		1		
東京	鴨川市地域公共交通活性化協議会	鴨川日東バス(株)	6		
	大島町交通対策会議	大島旅客自動車(株)	2		1
	檜原村地域公共交通活性化協議会	大谷商事(有)	1		
(有)横川交通		1			
神奈川	秦野市地域公共交通会議	(株)愛鶴	4		
	相模原市地域公共交通会議	山口自動車(株)		1	
	中井町地域公共交通会議	(株)湘南神奈交バス		1	
	二宮町地域公共交通活性化協議会	二宮神奈川ハイヤー(株)		2	
		相模中央交通(株)		2	
山梨	都留市地域公共交通活性化協議会	富士急山梨バス(株)	1		
	中央市地域公共交通活性化協議会	富士急山梨ハイヤー(株)		2	
		山交タウンコーチ(株)	1		
	笛吹市地域公共交通会議	山梨第一交通(株)		1	
		日之出観光自動車(株)		1	
	上野原市地域公共交通活性化協議会	(有)島田交通		1	
		上野原タクシー(株)		1	
		(有)四方津交通		1	
		富士急山梨バス(株)		1	
		(有)駅前タクシー		1	
	甲州市地域公共交通会議	甲州タクシー(株)		1	
		塩山タクシー(株)		1	
	富士川町地域公共交通活性化協議会	(有)青柳タクシー	1	1	
		(有)豊栄タクシー	1	1	
(有)鰍沢タクシー			1		
身延町地域公共交通活性化協議会	山交タウンコーチ(株)		2		
	(株)身延タクシー		1		
	(有)中富タクシー		1		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:古河市公共交通活性化会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
・総和中央交通株式会社 ・三和交通有限会社 ・諸川タクシー有限会社	総和地区、三和地区	シルバーカーの車内への持込みについて、市のホームページ・広報誌への掲載や、新規登録の際に丁寧に説明をすることなどにより周知活動を行い、買い物、外出目的の利用者の増を図った。	A	1日当たりの平均利用者数は目標値に達してはいるが、事業は概ね適切に実施された。	B 1日当たりの平均利用者数目標124人/日に対して、117.9人/日であった。目標を下回った理由としては、医療機関の休診日の多い木曜日の利用者や、シルバーカーの持込みによる買い物等への利用者が伸びなかったことがあげられる。	市の広報やホームページによる事業のアピールの継続。オペレーターの共通理解を深め、スキルアップするため研修の実施。高齢者の運転免許返納者を公共交通利用へ転換するための利用案内の配布等を実施し、利用者の増加につなげたい。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 日立市公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持計画

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
特定非営利活動法人助け合いなかさと	日立市中里地区(東河内町、中深荻町、下深荻町、入四間町)を8人乗りワゴン車でデマンド運行	・高齢者の地区内の移動手段を確保し、他の交通事業者と調整を図りながら、運行エリアの拡大など利便性の向上を図った。	A	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ・目標25人/日に対して21.4人/日であった。(対前年比96.2%) ・地域全世帯から徴収するNPOの会費は、目標90%に対し、100%徴収された。 ・地区人口の減少、高齢化の進展により利用者が減少傾向となっている。 ・山間地区にある中里地区の運転免許を持たない交通弱者の移動手段を確保することができた。	・引き続き高齢者など免許を持たない方の移動手段を確保するとともに、他の交通機関との連携を検討する。
日立電鉄交通サービス(株)	多賀駅前～大沼社宅～大甕駅前	・国道6号、国道245号以外を運行する市内の南北軸路線であるため、大沼小学校でバス教室などを実施し、公共交通の利用促進を図った。	A	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ・平成28年度までに公共交通利用者数105%(対平成22年度比)を目指すという目標に対して、99.6%、23,184人の利用であった。(対前年度93.3%) ・平成26年3月ダイヤ改正で利用者の少ない土日祝日の減便を行った。(1便当たりの利用者数対前年度比107.6%(H26:7.5人/便、H27:8.0人/便)) ・市内南北軸路線を確保し、公共交通体系の構築が図られたことにより、幹線に接続できる交通手段の確保ができた。	・利便性の高い市内南北軸路線を維持するため、市内公共交通の利用促進に、今後も引き続き取り組んでいく。

<p>日立電鉄交通サービス(株)</p>	<p>日立駅中央口～ケーズデンキ ～平和台霊園線</p>	<p>・引き続き、地域住民、交通事業者とパートナーシップ協定を締結して乗車促進活動の取り組みをおこなった。 ・乗車促進活動を行う地域の団体に対し、活動助成金を交付し、継続的な支援をおこなった。</p>	<p>A</p>	<p>・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>・平成28年度までに公共交通利用者数105%(対平成22年度比)を目指すという目標に対して、81.5%、105,843人の利用であった。(対前年度93.4%) ・人口減少や高齢化の進展により、路線バス利用者が減少している。 ・平成26年3月ダイヤ改正で利用者の少ない土日祝日の減便を行った。(1便当たりの利用者数対前年度比109.6%(H26:12.6人/便、H27:13.8人/便)) ・市内南北軸路線を確保し、公共交通体系の構築が図られたことにより、幹線に接続できる交通手段の確保ができた。</p>	<p>・利便性の高い市内南北軸路線を維持するため、住民主体で市内公共交通の利用促進に、今後も引き続き取り組んでいく。 ・交通事業者とパートナーシップ協定を締結して乗車促進活動を行う地域の団体に対し、活動助成金を交付するなどし、継続的に支援していく。</p>
<p>日立電鉄交通サービス(株)</p>	<p>(BRT) おさかなセンター～サンピア日立～大甕駅前</p>	<p>・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携して乗車促進活動の取り組みをおこなった。</p>	<p>A</p>	<p>・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>・1日当たりの利用者数234人で対前年度比147.7%であった。 ※ 1便当たりの利用者数比較 108.7%(H26:5.1人/便、H27:5.6人/便) ・平成26年3月ダイヤ改正でJRの列車との接続を考慮したダイヤ変更及び沿線施設等との連携を図り地域の活性化に繋げるため、震災の影響で閉鎖されていた施設のリニューアルオープンに合わせ、經由便を増便した。 ・市内南北軸路線を確保し、公共交通体系の構築が図られたことにより、幹線に接続できる交通手段の確保ができた。</p>	<p>・利便性の高い市内南北軸路線を維持するため、バス専用道の定時制、速達性のメリットPRしながら、引き続き、地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し利用促進を図る。また、バスの起終点となっている「日立おさかなセンター」が、平成26年9月21日から道の駅として供用開始されており、周辺まちづくりと共にさらなる利用促進につなげていく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 城里町新交通システム運行委員会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
茨城交通株式会社	①常北中学校～大網～赤沢観音前 ②常北中学校前～岩下入口	毎月実施している乗降調査を基に需要動向を把握するとともに下記の利用促進策を実施する。 ・利用者の利便性の確保を図るため400円の上限運賃を設定している。 ・住民に対し、町広報紙を通じた、公共交通の利用促進の広報活動を行う。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施されている。	B	事業目標を達成できなかった。事業の効果は達成された。	・目標値を高く設定したことや、メイン客層である中学生が夏休み期間中の乗車がほぼなかったため、目標の達成に至らなかった。 ・目標の設定値を見直し、適正な数値の設定を行う。 ・地元高校生会へ行ったアンケート調査及び昨年ど実施した調査事業で得られた利用者等からの意見を参考に運行ダイヤの見直しを行う予定。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:牛久市地域公共交通会議

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>関東鉄道株式会社</p>	<p>牛久市コミュニティバスかっぱ号の運行 ・朝夕の通勤者を対象とした路線(3路線) さくら台・みどり野ルート 上柏田・むつみルート(朝) 上柏田・むつみルート(夕) ・日中の外出者を対象とした路線(2路線) みどり野ルート 刈谷ルート ・車両減価償却費等国庫補助金を活用した車両導入 3台</p>	<p>利用実績データや利用者の意見等を分析または検討し、鉄道との乗り継ぎ時間の改善を目的とした時刻改正を行い、利用者の利用環境を改善し、利用者増を図った。</p>	<p>A</p> <p>計画どおり、平成25年4月1日より、全ての系統が運行開始された。</p>	<p>B</p> <p>・平成25年4月より運行が開始され、カバー人口率の目標値は達成できた。 ・平成27年度(H26.10.1~H27.9.30)の系統毎の評価水準は、前年度事業評価時の実績値に対してほとんどの系統で上回ったが、評価水準を上回る系統は無かった。未達成の理由としては、今回の評価対象期間が本格運行開始から2年半経過したが、かっぱ号に対する市民へ認知等が不足していたこと、評価水準が5年後に達成することを目標とした目標値のため、今回はその途中であることなどが未達成の要因と考えられる。 さくら台・みどり野ルート【昨年度実績:平均56人/日】 (評価水準:80人/日 実績:平均63人/日) 上柏田・むつみルート(朝夕合計)【昨年度実績:平均94人/日】 (評価水準:150人/日 実績:平均113人/日) みどり野ルート【昨年度実績:平均57人/日】 (評価水準:120人/日 実績:平均67人/日) 刈谷ルート【昨年度実績:平均40人/日】 (評価水準:60人/日 実績:平均38人/日) 全系統合計【昨年度実績:平均247人/日】 (評価水準:410人/日 実績:平均281人/日)</p>	<p>・鉄道との接続改善やかっぱ号の運行にあわせて路線図・時刻表の作成を行い、これらの資料の配付や利用促進キャンペーン等、かっぱ号の更なる利用促進策を実施することにより、広く市民に周知し、利用者の増加を図りたい。 ・利用実績データ等を調査・分析などを行い、必要に応じて計画や目標値の変更等を検討したい。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:常総市公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関鉄県南タクシー(株)	デマンド交通(常総市内全域)	<p>効果的な利用促進策の実施については、デマンド交通の利用方法等を市の広報紙へ掲載したほか、チラシの全戸配布及び公共施設に配置した。包括連携協定を結んでいる筑波大学と協働で作成を検討していた、デマンド交通に親しみやすくなるようなロゴや車両用のマグネット、チケット販売箇所へののぼり旗等については、今年度は未実施である。</p> <p>費用対効果改善に向けた検討については、引き続き利用料金の適正化に努めていく。</p> <p>データ収集については、予約センターのオペレーターによるお断り件数の把握、予約システムから時間帯別着信数、利用場所ランキング、車両の緯度・経度データ等の取得を継続的に行っている。</p> <p>学識経験者との協力体制については、当市の公共交通活性化協議会の委員長を筑波大学の教授に就任していただいている。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 目標である1日平均利用者数101人に対し、92人(対前年比6%減)の利用があり、目標を下回る結果となった。</p> <p>その理由としては、タクシー事業者との協議の中では、消費税増税後、外出や買い物等がこれまでよりも減っているのではないかという意見があった。</p> <p>こういった状況から、デマンド交通の周知や利用方法について市の広報紙への掲載やチラシの全戸配布及び公共施設への設置を行った。その効果もあり、広報紙への掲載やチラシ配布後は配布前に比べ多くの方に登録をしていただいた。また、利用者数の増加も見られた。</p>	<p>当市は26%を超える高齢化率となっており、今後もより一層高齢化率が進むことが予想される。今後は高齢者へのPR強化を検討していく必要がある。そのため、今年度は未実施となってしまうが、制度の周知による登録者の増加と減少傾向である利用者数の増加を目的として、包括連携協定を結んでいる筑波大学と協働で、デマンド交通に親しみやすくなるようなロゴ等を作成し、車両にはマグネットを取りつけ、チケット販売箇所にのぼり旗等を掲揚して周知を図る。また、公共交通マップ等の作成を検討していく。</p>
(有)絹西タクシー					
野村タクシー(有)					
松並タクシー(有)					
(有)三妻タクシー					
水海道ハイヤー(有)					
石塚タクシー(有)					

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 龍ヶ崎市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: (有)佐貫タクシー	運行系統名: 龍ヶ崎市乗合タクシー 龍ヶ崎市内全域	高齢者のイベント会場において乗合タクシーのチラシを配布し制度周知に努めた。また、自家用自動車から公共交通の利用へ転換させる取組としてモビリティマネジメントを実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり適切に実施された。	A 乗合タクシーの運行により公共交通空白地域が解消され、高齢者や交通弱者の移動手段を確保することができた。	目的地など利用者ニーズに対応した運行を検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:かすみがうら市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関鉄グリーンバス(株)	系統名:霞ヶ浦広域バス 運行区間:玉造駅～土浦駅	前回の目標を達成したため、平成27年度の計画では、利用者数・収支率の目標値を上げて事業を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。 運行日数:365日	C ・利用者数 目標8人/便→実績7.5人/便 ・収支率 目標60%以上→実績59% 収支率について、諸経費等(賃金ベースアップ・車両保持キの低下・消費税増)の増加があったものの、目標値に近い実績まで伸びている。	本路線の継続や更なる利用促進を図るため、より一層のニーズに合った運行時間と便数の検討が必要と考える。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:つくばみらい市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持事業国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>守谷タクシー 有限会社 有限会社 常陽観光タクシー さくら住宅 株式会社</p>	<p>つくばみらい市内全域</p>	<p>①利用者アンケートの実施 ②福祉関係部門との連携し、窓口来庁者に利用促進。</p>	<p>A 計画どおり事業は実施された。</p>	<p>C 目標である1日平均利用者数22人に対し、16.7人の利用があり、目標値を下回った。</p>	<p>利用登録されている方で、実際に利用されている方は2割程度であり、その大半が60歳以上の方となっている。 未利用者に対しても再度PRをし、デマンド乗合タクシーの利用を促す。 また、アンケート調査を行った結果、デマンド乗合タクシーを知らない方が多いため、市民全員にデマンド乗合タクシーを認知していただくよう周知活動を行っていく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:阿見町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持事業国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: 日本貿易運輸(株) (有)新町タクシー	陸上交通に係る 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統) 区間:阿見町全域及びJR荒川 沖駅東口付近	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の規模の大きい病院や商業施設、公共施設に利用登録申請書と利用ガイドを配布し、利用登録の増進に努めた。 ・過去の運行ログの解析により、効率の良い予約システムにするための検討を進めた。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・登録者数、月当たりの平均利用者数共に増加し、公共交通不便地域の移動手段の確保につながっている。 ・運行記録の解析によって、予約システムや運行体制の改善に努め、継続していく。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・目標である月当たり平均利用者数880人に対し、949人(対前年比106%)となっている。 ・安全確保のため、余裕を持った運行体制とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、乗合率が上昇するように予約システムや運行体制の改善を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:五霞町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
朝日自動車株式会社	○フィーダー系統 五霞町コミュニティ交通 (路線定期運行)	1年目(平成25年10月から平成26年9月)の大字別・バス停別・時間帯別のデータを基にルート・ダイヤの改正を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 定量的な目標は設定していないが、地域公共交通網形成計画の中で、2年連続で利用者数の増加が見込める場合本格運行へ移行する基準としている。 ルート・ダイヤの改正を実施した結果、1年目より利用者数は78%増加した。 ※3年目の利用者数についても、現在のところ対前年同月比で増加している。	現在の利用者数の推移では、平成28年10月から本格運行に移行することが見込まれる。 再度、利用状況の分析・検討を行い、また、平成27年9月から12月に実施したアンケート調査を基に、本格運行に向けてルート・ダイヤの検討を行う。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:佐野市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
佐野市	【基幹線】 葛の里寺番館 ～佐野新都市バスターミナル	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用して運行状況を配信するとともに、主要バス停の時刻表表示板にQRコードを掲載し、運行状況を検索できるようにした。 ・通院者の利便性向上のため、バス停を新設、佐野高校附属中学校通学者の利便性向上のため、ダイヤ改正を行った。 ・利用促進を図るための取組みを継続して行った。 	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C ①平均乗車密度 【目標】2.0⇒【実績】1.83 ②平均乗車人数/便 【目標】8.5人⇒【実績】7.7人 ③収支率 【目標】50%⇒【実績】33.1% 利用者数が微減傾向にあるが、利用客は固定されてきている。運行経費増額の要因もあり、目標値には届かなかった。	基幹線と各支線及び鉄道との乗り継ぎ利便性を向上させ、相乗効果を図る。
佐野市	【秋山線】 木浦原～市営バス車庫前	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用して運行状況を配信するとともに、主要バス停の時刻表表示板にQRコードを掲載し、運行状況を検索できるようにした。 ・鉄道との乗り継ぎが可能となるようダイヤ改正を行った。 ・自由乗降区間を拡充した。 ・利用促進を図るための取組みを継続して行った。 	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C ①平均乗車密度 【目標】1.0⇒【実績】0.80 ②平均乗車人数/便 【目標】3.3人⇒【実績】2.9人 ③収支率 【目標】25%⇒【実績】13.3% 利用者は微減傾向にあり、運行経費増額の要因もあり、期待される目標値には届かなかった。	地域住民の利用促進に努め、利用者の増加を図る。
佐野市	【仙波会沢線】 大釜～会沢小室	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用して運行状況を配信するとともに、主要バス停の時刻表表示板にQRコードを掲載し、運行状況を検索できるようにした。 ・自由乗降区間を拡充した。 ・利用促進を図るための取組みを継続して行った。 	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C ①平均乗車密度 【目標】1.0⇒【実績】0.58 ②平均乗車人数/便 【目標】4.0人⇒【実績】2.1人 ③収支率 【目標】20%⇒【実績】18.4% 利用者は微増傾向にあり、運行経費増額の要因もあり、期待される目標値には届かなかった。	地域住民の利用促進に努め、利用者の増加を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
佐野市	【野上線】 蓬山ログビジレッジ～田沼庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用して運行状況を配信するとともに、主要バス停の時刻表表示板にQRコードを掲載し、運行状況を検索できるようにした。 ・自由乗降区間を拡充した。 ・利用促進を図るための取組みを継続して行った。 	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> ①平均乗車密度【目標】1.0⇒【実績】0.52 ②平均乗車人数/便【目標】4.0人⇒【実績】2.3人 ③収支率【目標】20%⇒【実績】8.3% 利用者は微増傾向にあるが、運行経費増額の要因もあり、期待される目標値には届かなかった。 	地域住民の利用促進に努め、利用者の増加を図る。
佐野市	【飛駒線】 寺沢入口～田沼庁舎	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用して運行状況を配信するとともに、主要バス停の時刻表表示板にQRコードを掲載し、運行状況を検索できるようにした。 ・自由乗降区間を拡充した。 ・利用促進を図るための取組みを継続して行った。 	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> ①平均乗車密度【目標】1.0⇒【実績】0.72 ②平均乗車人数/便【目標】3.5人⇒【実績】2.7人 ③収支率【目標】20%⇒【実績】9.2% 利用者は微増傾向にあるが、運行経費増額の要因もあり、期待される目標値には届かなかった。 	地域住民の利用促進に努め、利用者の増加を図る。
佐野市	【名水赤見線】 佐野駅～赤見地区～佐野駅	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用して運行状況を配信するとともに、主要バス停の時刻表表示板にQRコードを掲載し、運行状況を検索できるようにした。 ・LED行先表示を作成し、及び車内音声を導入した。 ・沿線にある高校の新生全員の案内チラシを配布し、オリエンテーション時に定期乗車券購入申込を受けつけた。 ・利用促進を図るための取組みを継続して行った。 	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> ①平均乗車密度【目標】1.5⇒【実績】1.52 ②平均乗車人数/便【目標】5.0人⇒【実績】6.5人 ③収支率【目標】35%⇒【実績】33.6% 利用者は増加傾向にあり、平均乗車密度及び平均乗車人数/便が目標値を上回った。 	沿線の高校に通学する利用客以外の利用者を増やせるよう、地域住民の利用促進に努める。
佐野市	【犬伏線】 佐野新都市バスターミナル～高砂駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用して運行状況を配信するとともに、主要バス停の時刻表表示板にQRコードを掲載し、運行状況を検索できるようにした。 ・町会単位で説明会を開催し、町会に合わせた利用提案を行った。 ・利用促進を図るための取組みを継続して行った。 	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> ①平均乗車密度【目標】1.0⇒【実績】0.35 ②平均乗車人数/便【目標】4.0人⇒【実績】1.2人 ③収支率【目標】20%⇒【実績】7.9% 利用者が見込みより少なく、期待される目標値には届かなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐野駅と佐野新都市バスターミナルを往復する1系統に集約及びバス停を新設し、バス停間距離を短縮して利用者の利便性向上を図る。 ・地域住民の利用促進に努める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:宇都宮市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名:泉タクシー(株)	区域運行:国本地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や、利用人数に対応した配車体制の構築による利便性の向上を図った。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、2.4人であった。 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されており、利用者が増加傾向にある。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、既存の公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズを運行計画へ反映させることで、更なる利便性の向上を図っていく。
事業者名:泉タクシー(株)	区域運行:篠井地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実やUDタクシーの導入などによる利便性の向上を図った。 ・PR活動による潜在需要の掘り起こしなど利用の促進を図った。 ・富屋地区との共同運行について運行診断を実施し、実現可能性について検討した。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、1.8人であった。 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されており、利用者が増加傾向にある。また、鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・時間帯によっては、低密度の輸送が見られる状況であり、地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しなどについて検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで以上に、PR活動に取り組むことで利用の促進を図っていく。 ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、利便性の向上を図っていく。 ・利用実態を踏まえた配車体制の効率化による運行コスト抑制など、運行計画の改善・見直しについて検討していく。

事業者名: 泉タクシー(株)	区域運行: 富屋地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> ・PR活動による利用の促進や、UDタクシーの導入、路線バスとの接続強化並びに乗継抵抗緩和策による利便性の向上を図った。 ・篠井地区との共同運行について運行診断を実施し、実現可能性について検討した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、1.8人であった。 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されており、利用者が増加傾向にある。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいつくりや健康づくりにも寄与している。 ・時間帯によっては、低密度の輸送が見られる状況であり、地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しなどによる利便性向上策について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで以上に、PR活動に取り組むことで利用の促進を図っていく。 ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、利便性の向上を図っていく。 ・利用実態を踏まえた配車体制の効率化による運行コスト抑制など、運行計画の改善・見直しについて検討していく。
事業者名: 泉タクシー(株)	区域運行: 上河内地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実による利便性の向上を図った。 ・利用実態を踏まえた配車体制の構築による運行の効率化を図った。 ・PR活動による潜在需要の掘り起こしなど利用の促進を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、1.9人であった。 ・公共施設や医療機関など幅広く利用されており、利用者が増加傾向にある。また、鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいつくりや健康づくりにも寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PR活動に取り組むことで利用の促進を図っていく。 ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、利便性の向上を図っていく。
事業者名: アサヒタクシー(株)	区域運行: 横川地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実による利便性の向上を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、2.0人であった。 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されており、利用者が増加傾向にある。また、路線バスや鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいつくりや健康づくりにも寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、既存の公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズを運行計画へ反映させることで、更なる利便性の向上を図っていく。 ・利用実態を踏まえた配車体制の効率化など、運行計画の改善・見直しについて検討していく。

<p>事業者名:アサヒタクシー (株)</p>	<p>区域運行:河内地区(全域)</p>	<p>・PR活動や高齢者外出支援事業の活用などによる利用の促進を図った。</p>	<p>A</p>	<p>・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</p>	<p>B</p>	<p>・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、1.7人であった。 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されており、利用者が増加傾向にある。また、鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・PR活動に取り組むことで利用の促進を図っていく。 ・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、利便性の向上を図っていく。</p>
<p>事業者名:(有)雀タクシー</p>	<p>区域運行:雀宮地区(一部)</p>	<p>・地域ニーズ調査等に基づき導入区域を拡大した。 ・PR活動による潜在需要の掘り起こしなど利用の促進を図った。</p>	<p>A</p>	<p>・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</p>	<p>B</p>	<p>・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、1.7人であった。 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されており、利用者が増加傾向にある。また、鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。 ・時間帯によっては低密度の輸送が見られる状況であり、地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しについて検討する必要がある。</p>	<p>・まちづくり組織のホームページを活用するなど、これまで以上に、PR活動に取り組むことで利用の促進を図っていく。 ・地域ニーズ調査等に基づく導入区域の地区全域への拡大や、接続施設の充実などの運行計画の改善・見直しについて検討していく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 鹿沼市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>鹿沼合同タクシー(株) 粟野地域デマンド 粟野、粕尾、永野、清州</p>	<p>粟野地域内 区域運行 平成24年4月から粟野地区、粕尾地区、永野地区、清州地区の各デマンドを一元化した。</p>	<p>・本市の公共交通を広く周知するため、鹿沼市公共交通時刻表の発行部数を例年より増刷して発行し、新・鹿沼宿やコミュニティセンターなど公共施設や窓口に設置した。また、問い合わせがあった際には郵送でお送りしたり、運行車両内でもお渡しできるようにしたりするなど改善を図った。</p>	<p>A: 計画通り事業は適切に実施されている。</p>	<p>B: 目標 24人/日・台 平成25年度 15.2人/日・台 平成26年度 15.8人/日・台 平成27年度 15.1人/日・台 1日におけるデマンドバス1台あたりの利用者数は、前年度と比較すると、0.7人減少している。</p>	<p>今後も、効率的な運行を継続するとともに、様々な機会を通じてPRに努め、地域住民のバス利用促進を図る。また、毎月、基礎的データをまとめ、運転手会議においても情報共有を行うとともに、再編のための検討資料とする。利用者が知人に紹介できるようなチラシを作成し、車両内にコーナーを設け常備する。</p>
<p>平和タクシー(有) 板荷・菊沢地区デマンド</p>	<p>板荷・菊沢地区内 区域運行 運行開始 平成22年11月</p>	<p>・本市の公共交通を広く周知するため、鹿沼市公共交通時刻表の発行部数を例年より増刷して発行し、新・鹿沼宿やコミュニティセンターなど公共施設や窓口に設置した。また、問い合わせがあった際には郵送でお送りしたり、運行車両内でもお渡しできるようにしたりするなど改善を図った。</p>	<p>A: 計画通り事業は適切に実施されている。</p>	<p>B: 目標 24人/日・台 平成25年度 16.4人/日・台 平成26年度 18.0人/日・台 平成27年度 19.2人/日・台 1日におけるデマンドバス1台あたりの利用者数は、前年度と比較すると1.2人伸びている。 着実に市民の生活の足として浸透してきていることが伺える。</p>	<p>今後も、効率的な運行を継続するとともに、様々な機会を通じてPRに努め、地域住民のバス利用促進を図る。また、毎月、基礎的データをまとめ、運転手会議においても情報共有を行うとともに、再編のための検討資料とする。</p>

<p>鹿沼合同タクシー(株) 北押原・南押原・北犬飼 地区デマンド</p>	<p>北押原・南押原・北犬飼地 区内 区域運行 運行開始 平成22年11月</p>	<p>・本市の公共交通を広く周知する ため、鹿沼市公共交通時刻 表の発行部数を例年より増刷 して発行し、新・鹿沼宿やコミュ ニティセンターなど公共施設や 窓口に設置した。また、問い合 わせがあった際には郵送でお 送りしたり、運行車両内でもお 渡しできるようにしたりするなど 改善を図った。</p>	<p>A 計画通り事業は適切に実施 されている。</p>	<p>B 目標 24人/日・台 平成25年度 18.1人/日・台 平成26年度 18.9人/日・台 平成27年度 17.6人/日・台 1日におけるデマンドバス1 台あたりの利用者数は、前 年度と比較すると1.3人減少 している。</p>	<p>今後も、効率的な運行を継続 するとともに、様々な機会を通 じてPRに努め、地域住民のバ ス利用促進を図る。また、毎 月、基礎的データをまとめ、運 転手会議においても情報共有 を行うとともに、再編のための 検討資料とする。 利用者が知人に紹介できるよ うなチラシを作成し、車両内に コーナーを設け常備する。</p>
<p>鹿沼合同タクシー(株) 松原地区等デマンド</p>	<p>松原等区内 区域運行 運行開始 平成23年11月</p>	<p>・本市の公共交通を広く周知する ため、鹿沼市公共交通時刻 表の発行部数を例年より増刷 して発行し、新・鹿沼宿やコミュ ニティセンターなど公共施設や 窓口に設置した。また、問い合 わせがあった際には郵送でお 送りしたり、運行車両内でもお 渡しできるようにしたりするなど 改善を図った。</p>	<p>A 計画通り事業は適切に実施 されている。</p>	<p>B 目標 24人/日・台 平成25年度 13.4人/日・台 平成26年度 14.0人/日・台 平成27年度 13.8人/日・台 1日におけるデマンドバス1 台あたりの利用者数は、前 年度と比較すると0.2人減少 している。</p>	<p>今後も、効率的な運行を継続 するとともに、様々な機会を通 じてPRに努め、地域住民のバ ス利用促進を図る。また、毎 月、基礎的データをまとめ、運 転手会議においても情報共有 を行うとともに、再編のための 検討資料とする。 利用者が知人に紹介できるよ うなチラシを作成し、車両内に コーナーを設け常備する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 足利市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: 足利タクシー(株)	運行系統名: 名草線 入名草～足利赤十字病院	<p>地域全体の交通体系の中で人々の生活を捉えた交通サービスの提供などが前回の評価結果である。</p> <p>通勤・通学時間帯での運行や、病院・商業施設を経路とすることで、生活を捉えた交通サービスの提供を実現できた。</p>	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	<p>B</p> <p>目標値である1便あたりの平均利用者数4.0人については、全8便中5便において上回っている。</p> <p>目標値に達していない3便についても、利用実績や調査結果に基づき、目標を達成できるよう検討していきたい。</p>	<p>目標を達成できていない便は通学時間帯に運行している便であるので、今後も運行を確保していく必要がある。</p> <p>しかしながら、利用者が少なくは本来の目的を達成することはできないので、さらなる利用促進を図り、利用状況の改善に努めたい。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 栃木市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<ul style="list-style-type: none"> ・栃木交通(有) ・千代田タクシー(有) ・栃木合同タクシー(株) ・栃南タクシー(有) ・富士タクシー(有) ・(有)大平タクシー ・藤岡タクシー(株) ・(有)都賀タクシー ・(株)新交通 ・岩舟タクシー(株) ・安全タクシー(有) 	<p>【デマンド交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部エリア ・南部エリア 	<ul style="list-style-type: none"> ・周知及び利用促進のため、地域説明会や出前講座の開催 ・民生委員への説明、ふれあい相談員への協力依頼 ・広報紙への掲載 ・警察署と連携し、警察署窓口で運転免許証を自主的に返納した方に対し、回数券を配付 	<p>A 9/10豪雨による運休を除き、計画どおり事業は適切に実施された</p>	<p>B 利用登録者数は目標15,000人に対して16,504人、利用者数は目標250人/日に対し、249.3人/日であった。</p> <p>【目標達成状況の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用が午前中の便に集中しているため、集中する時間帯は予約を受付できない状況にある。 ・利用者の固定化による複数予約時の予約忘れ、直前キャンセル、使う見込の低い仮予約と思われる事案が発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各地域説明会や老人クラブ等への出前講座を積極的に開催し、制度の周知を図るとともに、利用者登録及び利用の呼びかけを行う。 ・利用者の多くは70歳以上であるため、60歳代以下や若年層の利用が増加するよう、インターネットを活用した利用者登録の電子申請を実施する。 ・本市の主要な病院である「とちぎメディカルセンターしもつが」の開院に伴い、病院への乗継が生じないよう運行エリアの見直しを行うことにより利便性の向上を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:真岡市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名 芳南交通(株) 潮田タクシー(株) (有)二宮タクシー 運行系統名 市内全域	運行地域:真岡市全域	<ul style="list-style-type: none"> ・運行内容の改善を図るとともに、地域公共交通網形成計画を策定するため、宇都宮大学との共同研究により、公共交通に関する市民意識調査や利用者アンケート、交通事業者とのヒアリング等を実施し、利用状況や需要などを分析した。 ・利用促進及び地域公共交通間の乗継促進を図るため、リーフレットの内容を刷新し、形状を携帯に便利な折り畳みタイプに変更した。 	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A <ul style="list-style-type: none"> ・1日の平均利用者数は、目標の75人/日に対し、74.0人となり、おおむね目標を達成した。 ・登録者数は、目標8,000人対して、平成27年9月末で8,163人となり目標を達成した。 ・利用者の81.8%が満足していると回答。 ・市民の89.5%が運行していることを知っているとは回答。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、策定中の地域公共交通網形成計画に基づき、運行内容の見直しを随時実施するとともに、相互に連携して運行を継続する。 ・持続的な運行とするため、利用促進を図るとともに、市民(利用者)や交通事業者等とさらなる連携を図り、協働して事業を実施する。
事業者名 大越観光バス(株) 運行系統名 市内循環線 高勢町経由線	始 点:真岡駅西口 ↓ ↑ 経由地:真岡市役所 ↓ ↑ 終 点:真岡駅西口	<ul style="list-style-type: none"> ・市の広報に利用方法や利用実績を掲載したり、小学校において公共交通に関する出前講座を実施したりするなど、公共交通への理解を深め、利用促進を図った。 	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B <ul style="list-style-type: none"> ・1日の平均利用者数は、目標の60人/日に対し、52.1人/日であり徐々に利用者が増加している。平成27年4月には、61.0人/日と初めて目標を超えた。 ・市民の90.4%が運行していることを知っているとは回答。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりや地域活性化の観点から、既存の民間バス路線や真岡鉄道との連携強化を図る。 ・高齢の運転免許返納者に、いちごタクシーの無料乗車券を配布することにより、高齢者の交通事故防止と公共交通の利用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 大田原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大田原市	佐久山・野崎駅線	<p>○利用促進のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バス路線・時刻表の配布 → 15,000部作成、配布 ・バスナビの配信 → 継続運営、情報更新 ・市ホームページ・広報誌を通じた情報提供 → 継続掲載、情報更新 	<p>○事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p> <p>A 【事業内容】 佐久山・野崎駅線、黒羽地域区域運行とも平成25年4月1日から実証運行を開始、同年10月1日から本格運行となる。</p>	<p>●利用者一人当たりの運行経費</p> <p>◎大田原市地域公共交通総合連携計画及び平成27年度生活交通ネットワーク計画による目標値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バス11路線230円/人 ・デマンド運行3,848円/人 <p>○平成26年度実績値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バス11路線380円/人 ・デマンド運行3,847円/人 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○平成27年度実績値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バス11路線237円/人 ・デマンド運行3,005円/人 <p>B ◎効果達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バス11路線関係 平成25年4月に15路線から11路線に大幅な再編をしたが、2年が経過し利用者の認識が定着されつつあり、目標値には届かなかったものの、前年度比では改善されている。 ・デマンド運行関係 年々の利用者増により平成27年度生活交通ネットワーク計画による目標値及び前年度実績値と比較すると改善されたが、まだ乗り合わせの効率が悪いため、運行経費の削減までには至っていない。 	<p>引き続き、利用促進のPR(市営バス路線・時刻表の配布やバスナビの配信、市ホームページ・広報誌を通じた情報提供等)を継続的に実施し、利用者数の増加に努めるほか、乗り合わせの率を高める等により運行経費削減を行い、平成27年度実績値である「利用者一人当たり運行経費」のさらなる圧縮を目指す。</p> <p>≪目標及び効果の見直し≫ 平成26年度の事業実績をもとに、当初策定した平成27年度の目標値を修正、平成28年度生活交通確保維持改善計画の策定時に、目標及び効果を見直しを行っている。</p>
山和タクシー有限会社	黒羽地域区域運行				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: さくら市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
さくらタクシー(有)	さくら市乗合タクシー 旧喜連川町全域	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙・HP等による広報活動を実施した。 ・幹線系統である路線バスへの乗継利便性の向上のため乗継券発行事業を実施した。 	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・1人1回乗車あたりの公費負担額:500円以下 ・収支率:1/3以上 ・サービスに対する満足度:50%以上 【結果】 <ul style="list-style-type: none"> ・公費負担額:1,105円 ・収支率:15.87% ・満足度:61.2% 昨年度(1,097円・15.91%)と比べ、ほぼ横ばいである。	利用者数のさらなる増加のため、広報等による利用促進に努める。 【参考】 前回の二次評価結果を受け、平成28年度のフィーダー計画より、目標値を1,000円以下・17%以上に修正した。
(有)誠タクシー	うじいえ乗合タクシー 旧氏家町域の一部(19行政区及び氏家市街地)	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙・HP・チラシの各戸配布等による広報活動を実施した。 ・幹線系統である路線バスへの乗継利便性の向上のため、乗継券発行事業を実施した。 	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 【目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・1人1回乗車あたりの公費負担額:500円以下 ・収支率:1/3以上 ・サービスに対する満足度:50%以上 【結果】 <ul style="list-style-type: none"> ・公費負担額:3,422円 ・収支率:6.00% ・満足度:50.0% 昨年度(5,283円・4.07%)と比べ、改善がみられる。	利用者数のさらなる増加のため、広報等による利用促進に努める。 【参考】 前回の二次評価結果を受け、平成28年度のフィーダー計画より、目標値を2,200円以下・10%以上に修正した。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 小山市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大山タクシー有限会社 城東中久喜線	小山駅東口 (イオンモール小山前) 高専入口	効果的な運行を継続するとともに、路線図、HP等を通じてPRに努め、沿線地域の方々の利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	A 目標170人/日に対して、219人/日であり、目標を超え、更に増加し続けている。	今後も効果的な運行を継続し、路線図、HP、広報等を通じてPRに努め、沿線地域の浸透及び利用促進を図る。
大山タクシー有限会社 大谷中央線	小山駅東口 (小山整形外科内科) 大谷公民館	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	A 目標190人/日(土塔平成通り線含む)に対して、191人/日(内171人)であり、目標を達成した。	今後も効果的な運行を継続し、路線図、HP、広報等を通じてPRに努め、沿線地域の浸透及び利用促進を図る。
大山タクシー有限会社 土塔平成通り線	小山駅東口 (小山工業団地) たいらや前	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	A 目標190人/日(大谷中央線含む)に対して、191人/日(内21人)であり、目標を達成した。	今後も効果的な運行を継続し、路線図、HP、広報等を通じてPRに努め、沿線地域の浸透及び利用促進を図る。
(株)小山中央観光バス 間々田東西線	間々田駅東口 (光南病院) 間々田駅西口	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C 目標165人/日に対して、66人/日であり、目標を下回っている。	新市民病院の移転開院により路線を再編し、ダイヤ・運行回数並びに系統そのものの見直しを実施した。今後は利用状況の調査、分析により、利便性の向上、利用促進を図る。
(株)小山中央観光バス 思川駅線	小山駅西口 (豊田公民館) 思川駅	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	B 目標130人/日(道の駅線含む)に対して、98人/日(内55人)であり、目標をやや下回っている。	利用状況の調査、分析によりダイヤ・運行回数並びに系統そのものの見直しを検討しつつ、HP、広報等で周知し利用促進を図る。
(株)小山中央観光バス 道の駅線	小山駅西口 (JA穂積支店前) 道の駅	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	B 目標130人/日(思川駅線含む)に対して、98人/日(内43人)であり、目標をやや下回っている。	利用状況の調査、分析によりダイヤ・運行回数並びに系統そのものの見直しを検討しつつ、HP、広報等で周知し利用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:日光市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
日光線通運(株)	運行地域:小来川地区	利用者の増と利便性の向上を図ることを目的に、平成25年10月から予約時間を始発便の2時間前までから1時間前までに変更したほか、バス停の随時変更を実施しているため、引き続き高齢者交通安全教室や地域老人会への説明会を開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取などを実施しながら現状把握に努めている。また、それらの状況を踏まえ、課題解決に向けて運行事業者と協議を重ね、今後の施策の方向性を検討する。	A 計画どおりに事業は適切に実施された。	C 当初の目標では1便あたりの利用者を2人以上と見込んでいたが、結果、0.87人に止まった。利用者が伸びない理由としては、予約のわずらわしさ、バス停まで歩くことに対する負担などが原因だと考えている。利便性の向上、周知の徹底を図る必要がある。	バス停までの移動負担を解消するため、平成27年10月から、より目的地に近い乗降ポイントを増設するとともに、利用案内チラシを作成・配布し、利便性向上と利用促進に努めている。 このため、今後も住民説明会等を開催し周知活動を実施していくほか、引き続き利用状況などの現状把握に努め、事業者と連携してさらなる利用促進に向けた対策を講じていく。
日光線通運(株)	運行地域:猪倉地区	利用者の増と利便性の向上を図ることを目的に、平成25年10月から予約時間を始発便の2時間前までから1時間前までに変更したほか、バス停の随時変更を実施しているため、引き続き高齢者交通安全教室や地域老人会への説明会を開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取などを実施しながら現状把握に努めている。また、それらの状況を踏まえ、課題解決に向けて運行事業者と協議を重ね、今後の施策の方向性を検討する。	A 計画どおりに事業は適切に実施された。	C 当初の目標では1便あたりの利用者を1人以上と見込んでいたが、結果、0.43人に止まった。利用者が伸びない理由としては、予約のわずらわしさ、バス停まで歩くことに対する負担などが原因だと考えている。利便性の向上、周知の徹底を図る必要がある。	バス停までの移動負担を解消するため、平成27年10月から、より目的地に近い乗降ポイントを増設するとともに、利用案内チラシを作成・配布し、利便性向上と利用促進に努めている。 このため、今後も住民説明会等を開催し周知活動を実施していくほか、引き続き利用状況などの現状把握に努め、事業者と連携してさらなる利用促進に向けた対策を講じていく。

<p>日光線通運(株)</p>	<p>運行地域:落合地区</p>	<p>利用者の増と利便性の向上を図ることを目的に、平成25年10月から予約時間を始発便の2時間前までから1時間前までに変更したほか、バス停の随時変更を実施しているため、引き続き高齢者交通安全教室や地域老人会への説明会を開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取などを実施しながら現状把握に努めている。また、それらの状況を踏まえ、課題解決に向けて運行事業者と協議を重ね、今後の施策の方向性を検討する。</p>	<p>A</p>	<p>計画どおりに事業は適切に実施された。</p>	<p>C</p>	<p>当初の目標では1便あたりの利用者を1人以上と見込んでいたが、結果、0.09人に止まった。利用者が伸びない理由としては、予約のわずらわしさ、バス停まで歩くことに対する負担などが原因だと考えている。利便性の向上、周知の徹底を図る必要がある。</p>	<p>バス停までの移動負担を解消するため、平成27年10月から、より目的地に近い乗降ポイントを増設するとともに、利用案内チラシを作成・配布し、利便性向上と利用促進に努めている。</p> <p>このため、今後も住民説明会等を開催し周知活動を実施していくほか、引き続き利用状況などの現状把握に努め、事業者と連携してさらなる利用促進に向けた対策を講じていく。</p>
-----------------	------------------	--	----------	---------------------------	----------	---	--

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 下野市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>【事業者名】 関東交通株式会社</p> <p>【運行系統名】 下野市全域</p>	<p>【デマンド交通「乗合タクシー」】 事業者名: 関東交通株式会社 運行区域: 下野市全域(石橋・国分寺・南河内の3エリア) 運行日: 年末年始(12月30日～翌年1月3日)の5日間を除く360日 運行時間帯: 午前7時00分～午後5時00分 運行本数: 1エリア 10便/1日 運行車両: 10人乗りワゴン車3台(1エリアごとに1台配置) 運賃: 大人(中学生以上)300円・小学生200円・未就学児無料(ただし、保護者同伴を要する)</p>	<p>平成23年に策定した「下野市地域公共交通総合連携計画」に基づきデマンドバスを運行してきた。 平成28年3月末で計画期間が終了することから、次期計画について検討する必要があるため、登録者全員を対象とするアンケートを実施した。アンケートから明らかになった課題や今までの運行実績を基に下野市公共交通会議で検証、評価を行い、市民にとって利便性が高く、効率的で持続可能な公共交通機関となるよう次期計画の見直しを検討している。</p>	<p>計画とおりに事業は適切に実施された。</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>利用者数を29,700人.収支率を21.3%を目標。実利用者数は29,456人、収支率20.1%となった。</p> <p style="text-align: center;">B</p>	<p>平成28年3月末で、現行の地域公共交通総合連携計画が期間満了することから、次期計画見直しを行う。 また、運行日・運行時間帯等の見直しを実施し効率的で持続可能なデマンドバスの運行を行っていくため利用者増加を図る。 ○高齢者外出支援事業の拡充 ○子育て世帯外出支援策の導入</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 茂木町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株) 柏タクシー	茂木エリア 逆川エリア 中川エリア 須藤エリア	前回目標80人/日を達成し、今回は4年目目標として87人/日を設定した。	A 計画どおり事業は実施された	A 4年目(292日間)12ヶ月(H26.10~H27.9)の目標利用者数25,284人(87人/日)に対し、25,714人(88人/日)であり目標を達成することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・目標は、運賃の値上げを検討する等、収支改善に向けての方策を検討していく。 ・現在実験中の公共交通と街中での買物客の増加を目指すため導入した「めぐるくんでおでかけ券」は、徐々に浸透し一定の効果が得られたことから、引き続き配布を行うとともに協賛(力)店の増加を図る。 ・利用者の少ない14時15時便を利用するお客様限定の50円特別割引券を限定3,000枚導入し、需要喚起と稼働率及び収支率の改善に一定の効果が得られたため、引き続き配布を行う。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 益子町地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
七井タクシー 七井地区	七井～益子地区	町・タクシー事業者・商工会との意見交換会を定期的に行い、デマンドタクシーの利用実績や、利用者の意見等を3者間で共有している。また、今後利用者を増やしていくための取組について、意見交換も行っている。	A	計画通り、事業は適切に実施された。	B 運行系統ごとの計画は立てておらず、全体として目標63人/日に対して、41.6人/日であった(H26.10～H27.9)。H26.4より本格運行を開始し2年目を迎えたので、町民の方々にも広く認知いただけるようになった。徐々に利用者も増加し、H27.2には1日の最大利用者が89人を記録するなど着実に利用者数は伸びている。また、利用者登録数は2,678人(H27.9末)で、平成27年度目標の2,500人を達成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加のために、高齢者単独世帯への周知として地域の民生委員に対しての説明と周知依頼、町広報誌によるさらなるPRを続ける。 ・福祉・高齢者支援関係課とも連携を図り、利用者を増やしていくための取組を行う。 ・住民のニーズを図るためにアンケートを実施し、それを基に平成28年度中に地域公共交通網形成計画を策定する。
益子タクシー(有) 益子地区	益子～七井～田野地区		A	計画通り、事業は適切に実施された。		
新光タクシー(有) 田野地区	田野～益子地区		A	計画通り、事業は適切に実施された。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:壬生町地域公共交通会議

評価対象事業名:野口タクシー有限会社、みどり交通有限会社、壬生観光自動車有限会社、壬生タクシー有限会社

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
野口タクシー有限会社 みどり交通有限会社 壬生観光自動車有限会社 壬生タクシー有限会社	運行区域:壬生町全域 運行日:月～金(土・日・祝日、 年末年始運休) 運行時間:8～17時 1時間/便 運行本数:1日9便 運行本数:セダン型タクシー2台 運賃:中学生以上300円、 小学生100円、 未就学児無料	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年12月に利用者アンケートを実施。本格運行に向け、利用者ニーズの把握に努めた。 ・デマンド交通の利用案内を町広報等で継続的に行った。また、町内の小・中学生に無料利用券を配布し、若い世代への制度周知に努め、利用者増加に努めた。 ・運転免許返納者に無料利用券(40回分)を配布し、自家用自動車から公共交通の利用への転換に努めた。 	A 事業は計画通り適切に実施された。	B 利用者数目標9,680人/年に対し、9,506人/年であった。 【目標を下回った理由】 1日の平均利用者数40人の目標のところ、39人/日と、ほぼ達成しているが、雨天時などの利用者が少なく、目標を若干下回った。 【目標達成状況に応じた効果】 各種PRにより、周知が図られ、前回評価時と比べ、利用者数は3人/日、0.1人/便増加し、収支率は1.5%向上した。	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドタクシーの利用に関する案内を、町広報等を通し継続的に行う。 ・利用満足度等、目標を達成している事項について、現状以上を維持できるよう、サービスの提供、関連事業を含む制度周知を推進する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:野木町公共交通活性化会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>・小山合同タクシー(株) ・(有)野木タクシー</p>	<p>町内全域</p>	<p>・前回の事業評価結果を踏まえ、利用者アンケートに加えて未利用者アンケートを実施した。 ・利用者アンケートの集計結果より利用者が感じたデマンドに対する不満点を改善するため、事業所と打合せを行い意見の交換をした。 ・利用案内パンフレットを修正し、免許返納によるデマンド利用券の交付の周知を促した。また、利用者の約92%を占める高齢者を対象に、約2,800冊の利用案内のパンフレットを配布し、利用の促進を図った。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	<p>B ・目標数値である利用登録者数の2,010人に対して、2,120人(平成27年9月末現在)であった。実証(試行)運行の当初年度の平成21年度(実施は11月から)は1,223人、平成22年度、平成23年度、平成24年度、平成25年度はおおよそ250人前後となっているが、平成26年度は174人の登録があり、実証運行開始からの6年間で初めての大きな減少であり、平成27年度も149人の登録があり、現在も減少傾向のまま続いている。利用登録者数は、目標値の2,010人を越え、順調に伸びてきているが、今後は登録人数の減少を踏まえながら目標値を改めていく。 ・目標数値である1日平均利用者数の38人/日に対して、約35.2人/日であった。実証(試行)運行の当初年度の平成21年度(実施は11月から)は23.8人/日、平成22年度は29.3人/日、平成23年度は31.8人/日、平成24年度は34.5人/日、平成25年度は36.8人と増加傾向にあったが、平成26年度は35.2人となり開始以来初めての減少となった。目標数値が高すぎるということで前年度から引き下げ、38人/日にしたにもかかわらず、37.5人となり、目標値に至らなかった。今後は、運行期間の6年間の実績を踏まえた目標値に改めていく。 ・利用者の年齢については、65歳以上の利用者が全体の91.8%であった。また、利用者アンケートの回答者のうち、外出の際の移動手段として徒歩、タクシー、デマンド交通のいずれかのみを利用していると回答した方が38.3%で、そのうちの過半数が送迎をたのめる人がいないとの回答を得たことから事業目的である高齢者等の交通弱者対策のための「安全で安心に移動できる「地域の足」の確保」として事業目的を果たしていることが伺える。</p>	<p>今後も、アンケート調査により、利用者のニーズ等を把握し、利用者の利便等を考慮した運行の実施を検討課題としていくとともに、登録及び利用の促進を図るため、引き続き本事業の周知等をおこなう。 また、定量的な目標・効果については、運行実施から約7年が経過したこともあるので、7年間の実績を踏まえたも目標値に改めていく</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 那須町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダ系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
那須合同自動車株式会社	北部運行区域(黒田原行き)	南部運行区域において稼働率の低かった車両を有効活用することにより、広谷地行きの実行を開始し、利便性の向上による利用者数の増加を目指した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 年間利用者数6,300人の目標値に対して、平成27年度の年間利用者数は5,806人であり、目標を達成することはできなかった。広谷地運行の開始により、昨年に比べ利用者数は1,307人(29%)増加した。利用登録はしたが利用していない方も多く、目標達成に至らなかったものと考えている。	広谷地行きを利用できる区域を北部運行区域全域に拡大する。また黒磯駅への乗り入れを検討し、利便性の向上に努める。それらの取り組みにより、利用者数7,400人/年の達成を目指す。
	北部運行区域(広谷地行き)				
	南部運行区域(黒田原行き)				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 桐生市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社沼田屋タクシー	黒保根町デマンドタクシー (運行区域: 黒保根地区)	<p>・前回の事業評価結果を踏まえ、利用者の移動実態を把握することにより、人々の生活を捉えた交通サービスとなるよう、平成26年度の本格運行以降、年齢階層別、時間帯別、曜日別及び天候別といった利用状況に関するデータの収集・蓄積を継続的に実施している。</p> <p>・本市においては、自家用自動車から公共交通へ転換させる取組みのひとつとして、運転免許証を自主返納した方に対して、黒保根町デマンドタクシーの回数券などを無償で交付しているが、わたらせ渓谷鐵道においても、運転免許証を自主返納して運転経歴証明書を取得した65歳以上の方に対して、普通運賃の50%割引を実施しており、行政だけでなく、鉄道事業者においても、移動の利便性の向上を図るための施策などを実施している。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。</p> <p>【理由】</p> <p>・目標である20人/1日に対し、補助対象期間である平成26年10月から平成27年9月末までの1日当たりの平均利用者数は18.3人であり、計画に掲げた目標には若干及ばなかったものの、昨年の同時期(平成25年10月から平成26年9月末まで(平成25年10月から平成26年3月末までは実証実験期間))における1日当たりの平均利用者数18.0人と比較すると、平成27年度における利用者数は微増傾向となっており、デマンドタクシーの運行以降、当該地域における日常生活に必要な移動手段は安定的に確保することができているものと考えられる。</p> <p>・利用状況を見ると、大半の利用が黒保根町内にあるわたらせ渓谷鐵道水沼駅に接続されるものであることから、幹線を結ぶ支線としての役割を果たしており、日常生活を支えるために必要な事業である。</p> <p>・平成26年11月においては、日常生活の移動手段として利用する方に加え、観光客と思われる一般の利用者が多かったことなどから、1日当たりの平均利用者数が20.1人となり、目標の1日当たり20人をわずかに上ることができた。</p>	<p>・今後も、引き続き、運行事業者から報告される日報などから利用状況を分析し、利用実態を把握する。</p> <p>・現在、デマンドタクシーを利用されていない方に対する周知及び実態把握により、新規需要の掘起こしなどに努めることで、1日当たり20人という目標を達成し、持続可能な運行を実現する。</p> <p>【今後の目標値について】</p> <p>人口減少が一層進行する中、利用者数が微増傾向にあること、当初から掲げている1日当たり20人という目標値を達成できないことなどから、1日当たりの利用者数については、引き続き、20人を目標値とする。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:熊谷市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者名: 国際十王交通株式会社</p>	<p>運行系統名: 江南地区路線「ほたる号」 【概要】一般乗合旅客自動車運送事業 【運行日】平成23年10月1日運行開始。毎日運行。ただし、1月1日から1月3日まで運休。 【運行時間帯】6:20～20:09 【運行本数】1日6往復 【運行ルート】江南行政センター～熊谷駅南口～江南行政センター～籠原駅南口～江南行政センター 【運行車両】ノンステップバス1台※国庫補助金「車両原価償却費等」あり 【運賃】(1)1回の運賃 100円(2)1日乗車券 300円(3)回数券(11枚綴り)1,000円(4)運賃の免除について 未就学児、障害者手帳(3種)所持者及びその介助・付添人1人、運転免許を自主返納した70歳以上の市民</p>	<p>目標については、順調に達成しているが、今後、更なる利用促進を行うため、他の交通ネットワークも含めた総合的な事業計画を行うため、「熊谷市地域公共交通網形成計画」を策定中である。</p>	<p>A:計画どおりに事業が開始され、順調に運行されていた。</p>	<p>A:【利用者数】 《目標》 平成27年度(H26.10.1～H27.9.30)30,000人 1便(往復)当り13.8人 《実績》 平成27.9月末時点(H26.10.1からH27.9.30まで)2,172便運行) 34,027人 1便当り15.6人 《考察》 平成26年9月末時点の1便当りの乗車人数の実績が16.2人であり、今回の実績が15.6人であることから、僅かに減少している。しかし、目標の13.8人は上回る結果となった。今後も引き続き利用者の増加に努めたい。</p>	<p>【既に実施した利用促進策】 ・「江南地区路線」の愛称、イラストを公募し、新規車両の納車に合わせ、ラッピングを施工した。 【今後の改善点】 ・江南地区の地元自治会と一緒に周知を行い、更なる利用者の増加に努めた。 ・H27.1から利用促進策の一環として、回数券を販売した。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:加須市地域公共交通会議

評価対象事業名:加須市コミュニティバス運行事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名:朝日自動車(株)	新古河駅～騎西総合支所	民間路線バスの路線廃止に伴い、当該路線の一部を引き継ぐ形で平成26年11月からシャトルバスの路線を変更するとともに、停留所を17箇所から18箇所に増設する見直しを実施した。	<p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p> <p>・市の北部から南部までを結ぶシャトルバスの運行により、市内の鉄道間の連携及び市の一体性が図られている。</p> <p>A</p> <p>・各フィーダー系統については、利用状況や意見等を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続している。</p>	<p>目標である1日平均利用者数30人に対し、平成27年度は18.7人であった。</p> <p>なお、1日平均利用者数については、平成24年10月～平成25年9月が10人、平成25年10月～平成26年9月が13.9人となっていたことから、利用者は着実に増えている状況である。</p> <p>C</p>	<p>市民ニーズや利用状況を分析のうえ、運行経路やバス停留所の増設などの必要性について検討し、より利用しやすいシャトルバスの運行に努めるものとする。</p>
事業者名:朝日自動車(株)、加須タクシー(株)、騎西タクシー(有)	加須市全域及び久喜市内栗橋駅西口	デマンド型乗合タクシーの利用促進を図るため、様々な機会を捉え周知活動を実施した。	<p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p> <p>・市全域等におけるデマンド型乗合タクシーの運行により、交通弱者の移動手段の確保や公共交通不便地域の解消が図られている。</p> <p>A</p> <p>・各フィーダー系統については、利用状況や意見等を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続している。</p>	<p>デマンド型乗合タクシー利用登録者数は目標である30,000人に対し、12,400人の登録となっており、前年度から1,160人増加した。運行開始当初から増加傾向で推移しており、引き続き目標値の達成に努めるものとする。</p> <p>B</p> <p>1日平均利用者数は目標である100人に対し、105.9人の利用であり、目標値を達成しているところである。</p>	<p>効果的な周知方法を検討し、利用登録者数の増加を図っていくこととする。</p> <p>一方で、中エリアにおいて、利用者の増加に伴い、時間帯によって予約できない場合が発生しているため、この課題を解消していかなければならない。</p> <p>今後においても、市民ニーズや利用状況を分析のうえ、より利用しやすいデマンド型乗合タクシーの運行に努めるものとする。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:本庄市交通政策協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
朝日自動車株式会社	本庄北地域デマンド	高齢者の集いの場である「ふれあいいきいきサロン(社会福祉協議会の提案事業)」の中で、説明会を開催した。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B	<p>【デマンド交通】</p> 需要の顕在化は見られるものの、本質的に対象としている需要は非常に小さい。利用者の年齢層は高い(70歳以上の利用者が過半数である)ことから、需要の掘り起こし及び利用促進を図るにあたり、紙面による周知・PRに工夫を凝らしていく。 <p>【シャトル便】</p> 市外在住者の利用が多いという特性を踏まえ、情報発信の方法に工夫を凝らしていく。また、路線定期運行のバスであることから、利用促進策として定期券の導入について検討を進める。
	本庄南地域デマンド		A		B	
	児玉市街地デマンド		A		B	
	児玉山間地域デマンド		A		B	
本庄観光株式会社	本庄シャトル便	市外在住者の利用が多いとの調査結果を受け、乗換検索サイトに時刻表の掲載を依頼した。 平成27年3月、運行開始後の乗車人数が1万人に到達した記念として、PRを兼ねた懸賞クイズを広報紙上で実施した。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B	<p>【共通事項】</p> デマンド交通の運行開始後、既存路線バス(地域間幹線系統)の利用者数は増加している。本庄市内には、合計3社の民間路線バスが運行されていることから、これらの路線と鉄道を含めた地域交通体系の中で、利用促進を図っていく必要がある。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 深谷市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)協同観光バス	北部定期便: 深谷駅北口～渋沢栄一記念館～深谷駅北口 (車両減価償却費等国庫補助金申請系統) 西循環便: 深谷駅南口～深谷駅北口～深谷駅南口 (車両減価償却費等国庫補助金申請系統)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	【目標1:利用者数の増加】 (目標)29,600人 (実績)37,692人 【目標2:利用者満足度の向上】 (目標)利用者アンケートで各項目ともH25調査以上の満足度 (実績)12項目中、9項目達成	長大な路線を短縮し運行本数を増やした結果、自宅からバス停までの距離に関する満足度が10.5%低下した一方、運行本数に対する満足度は31.1%、運行時間に対する満足度は25.9%向上することができた。 長大な路線を短縮し運行本数を増やした結果、自宅からバス停までの距離に関する満足度が10.5%低下した一方、運行本数に対する満足度は31.1%、運行時間に対する満足度は25.9%向上することができた。
花園観光バス(株)	北部デマンド 南部デマンド		A 計画どおり事業は適切に実施された。	【目標3:収支率の向上】 (目標)10.3% (実績)7.8% 【車両取得に係る目標:車椅子利用者数】 (目標)2人 (実績)1人	今後は、利用者アンケートの結果を踏まえ、現行ルートを継続し市民への定着を図るとともに、定時定路線のバス停に対する不満を解消するため、定時定路線とデマンドバスの結節点の見直し、デマンド地区間の結節点の追加等を実施し、利用ニーズが高い場所へのアクセスを確保できるよう改善していく。
深谷タクシー(有)	岡部デマンド 川本デマンド 花園デマンド		A 計画どおり事業は適切に実施された。	利用者数については、目標を大きく上回ることができた。利用者満足度、車椅子利用者は目標値を若干下回り達成できなかったが、概ね目的を達成していると考えている。収支率に関しては目標を達成できなかった。	また、引き続き自治会における説明会や広報活動を行い、市民のバス利用に対する理解を深め、利用者の増加と収支率の改善に繋がるよう情報提供に努めていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:白岡市地域公共交通確保維持改善協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
昭和タクシー有限公司	<p>【デマンド交通「のりあい交通」】 事業者名:昭和タクシー 運行区域:市内全域 運行日:月曜～土曜(祝日、年末年始運休) 運行時間帯:8時30分～17時30分 運行本数:8便/日 運行車両:セダン型車両 運賃:500円(障害者、小学生は300円、乗り合い利用の割引制度あり)</p>	<p>運行初年度のため、反映事項なし</p>	A	<p>計画に基づき、適切に実施した。</p>	<p>B 1日当たりの利用者数、収支率ともに目標には、到達しなかった。運行初年度であることから、需要予測の数値をそのまま目標値としたことが原因と考える。 ただし、1日当たりの利用者数が、平成26年10月～平成27年3月が22.6人であったが、平成27年4月～9月は30.4人と増加している。</p>	<p>デマンド型交通という新たな形態に対して、市民の理解度が当初深まらなかったことが、目標に到達しなかった原因と考える。このため、目標値を再設定する。 地域の自治会などに制度の理解促進、利用者の増加につなげていくための協力を求めるとともに、高齢者の会合などの機会を捉えて周知活動を展開していく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 鳩山町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
川越観光自動車(株)	町内循環(NT石坂)	・路線別に利用者数を予測し、目標を明確化。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 収支率: 13.4% 目標の16.7%に未達の理由は、乗車人数が目標に達しなかったためである。	・鳩山町地域公共交通網形成計画を策定中であり、OD調査や町内循環バス及びデマンドタクシーに関するアンケート調査を行ったため、その結果を反映させる。 ・その結果を基に、町内エリア便や町内循環バス、民間路線バスも含め一体的な見直しを行う。 ・形成計画の推進事業として、公共交通マップの作成やモビリティ・マネジメントの実施、はとやまエコポイント制度の創設等を行い、公共交通に対する利用喚起や利用促進を行う。
(株)越生タクシー	デマンドタクシー	・路線別に利用者数を予測し、目標を明確化。 ・転入者に対して、デマンドタクシーについて説明し、若年者の利用登録者を増やす。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 利用者数: 114.2人(埼玉医大便26.1人, 町内エリア便51.2人, 町内循環バス36.9人) ・目標の121人に未達の理由は、免許を保有する高齢者が増え、町内エリア便と町内循環バスの利用者減少したのではないかと推測する。 ・デマンドタクシーは、利用者の変化が見受けられる。新規の利用者が増えたが利用頻度が少なく、逆に頻度の多い利用者が減少しているため、町内エリア便で利用者が減少した。 A デマンドタクシー利用登録者数: 3,108人 ・高齢者も含めた家族全員の登録が増えた ・転入者の登録も多く、説明した効果が見られた。	・引き続き、転入者に対して、デマンドタクシーについて説明することで、更に認知度を高め利用登録者数を増やす。
				A ・交通不便地域の解消(町内全域をカバー)した。 ・通学・通院・買物等の主な目的地への移動手段の確保はできている。 ・利用者、住民等の満足度等の維持・向上が図られた。	効果については、今後も継続できるように、事業者、自治体、関係機関の連携を適切に行う。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:小鹿野町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
秩父丸通タクシー株式会社	<p>運行系統名:小鹿野伊豆沢長若乗合タクシー</p> <p>本乗合タクシー運行事業は、主に小鹿野町の交通空白地域を含めた地域を運行し、西武鉄道・西武秩父駅及び秩父鉄道・秩父駅から町内へと運行している西武観光バス小鹿野線の複数の停留所と接続し、町営バスとの接続や地域内の高齢者・障害者を中心とした利便性向上を図るものである。</p>	<p>前回の計画において、事業開始初年度であったことから、年間利用者数の見込み及び目標の設定が適切に行うことができなかったが、今年度は前年度実績を考慮した上で適切な目標を設定することができた。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>事業が計画に位置づけられた目標を達成した。</p> <p>A 【目標】年間利用者数 2,490人 【実績】 2,806人</p>	<p>目標の達成状況から、利用は増加傾向にある。また、定期的にご利用するリピーターの増加が見られており、現状の乗合タクシーの利便性は比較的高いと思われることから、引続き77歳以上町営バス優待券の申請時に個別に乗合タクシーの案内を行うなど利用希望者への情報提供を行っていく。</p> <p>公共交通不便地域を中心とした住民の公共交通確保のため、今後とも利用者の維持や利便性の向上に努め、現状の運行体制を維持していくことが今後の目標となる。また、西武観光バス・町営バス等も含めた公共交通全体の状況を勘案しながら運行範囲等乗合タクシーの運行体制の見直しを随時行っていく必要がある。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 寄居町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大信観光花園有限会社 有限会社本間タクシー 株式会社桜交通	・デマンド型の乗合タクシーを町内全域運行する。 ・事前予約に応じてドア・ツー・ドア方式により運行する。	利用状況のデータを蓄積・分析するとともに利用率向上に向けた検討を行った。 HP等の情報の見直しや発信を積極的に行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B H27(26.10～27.9)事業 目標 ・利用者数 46人/日 ・収支率 26% 結果 ・利用者数 42人/日 ・収支率 24%	利用者数及び収支率が目標に及ばなかった。原因追及を行う。 予約システムの調整や広報宣伝により乗合率を向上させ利用者数を増やしていく。 予約ができなかった対象者の集計を生かす。月50件から90件の予約不能があり、当日予約の希望が多い。 利用時間の重複が問題と考える。 システム等再確認を行う。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:毛呂山町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社越生タクシー	山地域コース	初めての事業評価のため、前回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ※もろバス3コースを包括して設定 【目標】 ①利用者数 143人/1日 ②往復利用者割合 75% ③満足度 75% 【実績】 ①利用者数 101人/1日 ②往復利用者割合 70% ③満足度 82%	平成26年10月より、3コースすべてが、埼玉医大、鉄道駅等を経由し、さらに新設停留所を設置したことにより町内の主要拠点へのアクセス利便性が向上したものの、依然としてコースによっては乗客数の偏りが発生している。今後も引き続き、アンケート調査、運行状況の分析等を実施し、ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しを検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 茂原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者: 小湊鐵道株式会社 運行系統: 南部(鶴枝)・南部(五郷)</p>	<p>南部(鶴枝): 茂原駅～三ヶ谷神社～茂原駅 南部(五郷): 茂原駅～石神集会所～茂原駅</p>	<p>市民バス「モバス」の東部コースを3.5便から5.5便へ増便した。</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>B 目標である市民バス全体の1年間の利用者数13,172人に対し12,727人であり目標を達成することが出来なかった。 運行時間の変更により、南部(鶴枝)・南部(五郷)コースは5,883人(8%減少)、北部(豊岡)コースは1,719人(16.4%減少)であるが、前回の事業評価での改善点であった東部コースの運行便数を増加したことで、東部コースが5,125人(16.5%増加)となったことにより、本事業を開始する以前は前年比平均5.4%減少していた全体の利用者数が今年は前年比1%の減少となった。</p>	<p>老朽化しているバス車両の更新を行う。その際、バリアフリー対応のノンステップバスを導入し利用者の安全性の確保及び利便性の向上を図る。 また、運賃収入以外の収入確保のためバス車体及び車内に有料広告の掲載を行う。 高齢者交通安全施策の一環及び利用者拡大の為、運転免許自主返納による運転経歴証明書制度の周知・啓発を図る</p>
<p>事業者: 有限会社東タクシー 運行系統: 北西エリア</p>	<p>茂原市北西エリア</p>	<p>デマンド交通の周知を図るため運行エリア内の自治会へ説明会を行った。(24回実施、831名参加) 午後の4便について予約受付時間を当日午前11時まで拡充した。</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>B 運行エリア内の自治会へ説明会を行った結果、利用登録者数が482人(昨年比約1.8倍)となり、利用者数も776人(昨年比約1.4倍)となった。 利用者数は目標値と比べると大きく下回っている。しかしながら、前年は行先の約半数を医療機関が占めていたが、今年は商業施設、公共施設等への利用割合が増加しており、新たな利用機会の創出が図られた。また、60歳以上の高齢者が96%以上を占めていることから、交通弱者の移手段が確保され、外出機会の増加に大きく寄与している。</p>	<p>デマンド交通「ふれあい」については、目標を大きく下回っているが、利用者数は増加しているため、広報・自治会への回覧等を通じ制度のさらなる周知を図ると共に、説明会を積極的に実施する。 また、運行内容の改善に柔軟に対応する。 高齢者交通安全施策の一環及び利用者拡大の為、運転免許自主返納による運転経歴証明書制度の周知・啓発を図る</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: いすみ市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鉄道(株) いすみ循環-1	市役所大原庁舎～長者町駅～いすみ医療センター～市役所大原庁舎	平成27年3月に行われた鉄道のダイヤ改正の状況に合わせた運行時刻の見直しを10月より行うため準備を行い、地域の小・中・高等学校と連携を図り、利用促進に向けた継続的な啓発を実施しつつ利用実績等を鑑み事業の適正化に努めた。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。	平成27年度の補助対象期間(平成26年10月から平成27年9月)中の利用者目標60,000人のところ、実績は57,980人であった。 一部の系統(大原巡回東線、大原線、東海線)については、対前年比で利用者が若干増加(対前年比:大原巡回東線106.2%、大原線107.2%、東海線188.7%)しているものの残りの系統については、減少傾向にある。 理由として考えられるのは、少子化により対象となる沿線の児童・生徒の減少及びの高齢の利用者がコミュニティバスからデマンド交通への移行したことによる減少が大きな要因と考える。 しかしながら全体的には、対前年比で若干の減とはなるが95.9%の利用が見られるなど市全体での路線バスが移動手段としての位置付が確保されている。	利用実態を注視し、運行時刻の見直しに配慮しつつ、今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施する。
小湊鉄道(株) いすみ循環-2	長者町駅～いすみ医療センター～市役所大原庁舎		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
小湊鉄道(株) いすみ循環-3	長者町駅～市役所夷隅庁舎前～市役所大原庁舎		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
小湊鉄道(株) いすみ循環-4	国吉駅入口～太東駅～長者町駅		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
小湊鉄道(株) いすみ循環-5	市役所大原庁舎～長者町駅～市役所夷隅庁舎前		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
小湊鉄道(株) いすみ循環-6	市役所夷隅庁舎前～下布施～市役所大原庁舎		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
(株)HMC東京 大原巡回東線	清水尻橋～山田新町～市役所大原庁舎		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
(株)HMC東京 大原巡回浪花線-1	市役所大原庁舎～自動車教習所入口～市役所大原庁舎		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
(株)HMC東京 大原巡回浪花線-2	浪花駅～自動車教習所入口～市役所大原庁舎		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
(株)HMC東京 大原巡回大原線	市役所大原庁舎～造式公会堂～大井区民会館～市役所大原庁舎		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
(株)HMC東京 大原巡回東海線	市役所大原庁舎～玉前神社～三門駅～市役所大原庁舎		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
(株)HMC東京 大原巡回大原・国吉線	いすみ医療センター～岸～市役所大原庁舎		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
(株)HMC東京 大原巡回布施線	市役所大原庁舎～上総東駅～下布施～市役所大原庁舎		A 計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。		
					平成27年10月1日より運休
					平成27年10月1日より運休

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:旭市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-1)	干潟支所～東6区集会所～東1区集会所～旭中央病院	平成25年4月に、地元住民の要望と交通空白地域の解消を目的とした一部ルートの延伸を図ったことにより、新たな利用者の掘り起こし(通学や通院利用)をすることができた。また、JRのダイヤ改正にあわせ、平成27年3月に運行ダイヤの見直しを行った。 これらにより、地域内フィーダー系統確保維持計画に掲げた「生活の質の向上」「自家用自動車で送迎してもらっていたものがバス利用へ移行」など、移動の円滑化も図られ、計画実施による効果が見られた。	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	C 目標である10人/平日1便、5人/休日1便に対して、実績は8.6人/平日1便、5.1人/休日1便であった。 平成25年4月に新たな地区への乗り入れを開始したことにより、公共交通空白地域の解消が図られるとともに、地域に公共交通の利用が浸透・定着してきており、利用者の増加(前年度比0.5%増)など一定の効果が見受けられたが、定量的な目標を達成するに至らなかった。	目標値について、10人/平日1便、5人/休日1便に引き続き設定するとともに、目標値達成に向けて、乗車実績の分析や利用者の意見聴取等による利用ニーズの把握を行い、必要に応じて運行ルートやダイヤ等の見直しを検討する。また、公共交通利用促進のための啓発等の取り組みを行うこととする。
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-2)	干潟支所～湯木坂上～干潟駅		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-3)	干潟駅～湯木坂上～東1区集会所～旭中央病院		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-4)	旭中央病院～東1区集会所～市役所～旭中央病院		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-5)	旭中央病院～市役所～湯木坂上～干潟支所		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-6)	旭中央病院～東1区集会所～東6区集会所～干潟支所		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 山武市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: ちばフラワーバス(株) 運行系統名: 山武市基幹バス(蓮沼⇄山武)	山武市基幹バス【コミュバス】(蓮沼⇄山武)	前回の改善点としたコミュバスの路線変更を実施し、新たな利用者の確保につなげた。また、運賃収入以外の財源確保策として有料広告制度の導入を実施した。	A ●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・お試し乗車キャンペーン等により、基幹バスの認知度が向上し、利用促進が図られている。 ・アンケートの集計結果や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	【利用者数】(目標) コミュバス・デマンド交通の利用者数を8,000人/月以上とする。 (達成状況) コミュバス 3,653人/月 デマンド交通 4,154人/月 合計 7,807人/月 目標は未達となったが、前回評価時の7,713人/月から、利用者数は94人/月の増加、月別利用者数も平成26年10月・11月、平成27年7月・8月は8,000人/月を超えており、月によっては目標人数を達成している。	【コミュバス】 ・利用者からの要望による路線変更を実施し、新たな利用者確保につながったことから、次年度も引き続き利用者ニーズを把握し、利便性向上に向けた路線変更の検討を行い、新たな利用者確保に努める。 【デマンド交通】 ・地域ごとに利用者数に偏りがあるため、乗合率を高め、より効率的な運行となるような配車を検討することで利用者の満足度向上を図る。またモビリティ・マネジメントを通じ乗合タクシーの利用方法の周知や、PR活動を実施し利用者数の向上に努める。
事業者名: 房総自動車(有) 運行系統名: 山武市乗合タクシー(成東、山武、松尾・蓮沼)	山武市乗合タクシー【デマンド交通】(成東、山武、松尾・蓮沼)	前回の改善点とした運賃収入以外の財源確保策として、コミュバス同様、有料広告制度の導入を実施した。	A ●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・アンケートの集計結果や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	B 【公共交通に関する満足度】(目標) 公共交通に関する満足度を50%以上とする。 (達成状況) 公共交通に関する満足度 40.3% 目標50%を9.7ポイント下回っており、前回評価時の43.3%からも3.0ポイント低下している。 新たな公共交通体系の周知不足や少子高齢化等の環境変化による利用者ニーズの変化に充分には対応できていないことが要因と考えられる。	【デマンド交通】 ・地域ごとに利用者数に偏りがあるため、乗合率を高め、より効率的な運行となるような配車を検討することで利用者の満足度向上を図る。またモビリティ・マネジメントを通じ乗合タクシーの利用方法の周知や、PR活動を実施し利用者数の向上に努める。
事業者名: 両総観光(株) 運行系統名: 山武市乗合タクシー(成東、山武)	山武市乗合タクシー【デマンド交通】(成東、山武)	前回の改善点とした運賃収入以外の財源確保策として、コミュバス同様、有料広告制度の導入を実施した。	A ●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・アンケートの集計結果や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	B 【公共交通に関する満足度】(目標) 公共交通に関する満足度を50%以上とする。 (達成状況) 公共交通に関する満足度 40.3% 目標50%を9.7ポイント下回っており、前回評価時の43.3%からも3.0ポイント低下している。 新たな公共交通体系の周知不足や少子高齢化等の環境変化による利用者ニーズの変化に充分には対応できていないことが要因と考えられる。	【コミュバス・デマンド交通】 ・市内公共交通の周知や一体的な利用促進を図るため、モビリティ・マネジメントの強化を図る。具体的には、①公共交通マップの作成、②運転免許自主返納者への優遇措置、③一日乗車券等の導入、④市内イベントへの出店(PR活動、出前登録受付等)を検討する。
事業者名: (有)松尾タクシー 運行系統名: 山武市乗合タクシー(成東、松尾・蓮沼)	山武市乗合タクシー【デマンド交通】(成東、松尾・蓮沼)	前回の改善点とした運賃収入以外の財源確保策として、コミュバス同様、有料広告制度の導入を実施した。	A ●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 ・アンケートの集計結果や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	B 【公共交通に関する満足度】(目標) 公共交通に関する満足度を50%以上とする。 (達成状況) 公共交通に関する満足度 40.3% 目標50%を9.7ポイント下回っており、前回評価時の43.3%からも3.0ポイント低下している。 新たな公共交通体系の周知不足や少子高齢化等の環境変化による利用者ニーズの変化に充分には対応できていないことが要因と考えられる。	【コミュバス・デマンド交通】 ・市内公共交通の周知や一体的な利用促進を図るため、モビリティ・マネジメントの強化を図る。具体的には、①公共交通マップの作成、②運転免許自主返納者への優遇措置、③一日乗車券等の導入、④市内イベントへの出店(PR活動、出前登録受付等)を検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:香取市地域公共交通協議会

評価対象事業名:香取市地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉交通株式会社	小見川循環バス(西ルート)	利用者の意見聴取や運行状況の分析を行い、利用促進に向けた取り組みを行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A 計画目標12,300人に対し、実績は12,317人となった	今後も継続して利用状況の分析や住民ニーズの把握を行い、必要に応じダイヤの見直し等を行っていく。 また、引き続き利用促進の取り組みについても実施していく。
株式会社千葉交タクシー	小見川乗合タクシー	利用者の意見聴取や運行業者からの意見等を受け、第17回香取市地域公共交通協議会での協議を行い、平成27年10月より本格運行へ移行することとなった。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A 計画目標4,400人に対し、実績は5,359人となった	平成27年10月をもって本格運行に移行することとなったが、今後も引き続き利用状況の分析や住民ニーズの把握を行い、運行内容の見直し・検討を行っていく。 また、引き続き利用促進の取り組みについても実施していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:市原市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鉄道(株)	①市原鶴舞BT～湯原～里見駅	今年度においても、計画どおり事業を実施するとともに、小中一貫教育校の通学に対応した運行ダイヤ・運行ルート改善検討等を適宜行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 平成25年4月に加茂地区の5校を統合して開校した小中一貫教育校の児童生徒の通学手段の確保に寄与した。 目標「平日の平均利用者45人/日、休日の平均利用者30人/日」に対して、「平日の平均利用者55人/日、休日の平均利用者9人/日」であった。	今後も、小中一貫教育校の通学に対応したダイヤ編成等を検討していく。 また、平日の登下校の時間帯以外の便及び土日祝の便は非常に利用が少なく、運行の維持が厳しい状況であるため、来年度以降、利用が少ない便の見直しを事業者とともに検討していきたい。
	②市原鶴舞BT～山口駒込～里見駅				
	③市原鶴舞BT～高滝駅～里見駅				
	④市原鶴舞BT～市原湖畔美術館～山口駒込～里見駅				
	⑤市原鶴舞BT～市原湖畔美術館～高滝駅～里見駅				

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 君津市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大新東株式会社君津営業所	小櫃・上総地区	効率的な配車により、利用者が増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 目標利用者数55人/日に対し、実績は47.3人/日であった。 目標収支率16.7%に対し、実績は15.3%であった。	今後も効率的な配車や利用促進を図り、利用者増を目指す。
	亀山地区(スクールを含む)	生徒数の減少によりスクール利用者が減少した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。		今後もスクール利用者以外の利用促進を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:印西市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
ちばレインボーバス(株)	<p>【コミュニティバス(ふれあいバス)】 運行系統:印旛支所ルート(印旛支所～竜腹寺～印旛支所) 23.2km 運行日:毎日運行 運行時間帯: 7時57分～17時07分 運行本数:6便/日(循環型) 運行車両:1台 運賃:大人(中学生以上)100円 ※小学生・乳幼児・障害者手帳保持者及び介助者1人まで無料</p>	<p>利用者が目標を下回っている状況を踏まえ、利便性向上策を検討し、平成27年10月より運行本数を1日6便から8便に増便するとともに運行ダイヤを見直すこととした。</p>	<p>A 印旛支所や日本医大千葉北総病院が立地する印旛日本医大駅エリアと、住宅が集積し大規模な商業施設が立地する印西牧の原駅周辺エリアを結び、荒野・竜腹寺地区を経由することにより、公共交通不便地域の解消を図ることを目的に、計画どおり実施された。</p>	<p>B 結果:1日 36.49人 ・前年度に比べ利用者が伸びたものの目標人数50人には及ばなかった。 ・公共交通不便地域(竜腹寺、荒野)における利用はあり、公共交通不便地域の解消が図れた。</p>	<p>目標利用者を下回った要因として、平成24年6月に行ったルート延伸に伴う減便が考えられることから、平成27年10月より運行本数を増やすとともに運行ダイヤを見直すこととした。 今後も利用動向を注視しつつ、継続的に利便性向上及び利用促進策を検討する必要がある。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 東金市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
東金タクシー有限会社	デマンド交通 (東金市乗合タクシー) 市内全域		A 計画どおり事業は適切に実施された。	<p>【当初目標数値】 1日当たり利用者数 ・平成26年10月から平成26年12月まで 69人 (運行車両台数 3台) ・平成27年1月から平成27年9月まで 78人 (運行車両台数 4台)</p>	アンケート調査等を活用して、引き続き新規利用者や団体利用者の取り込みをはじめとする利用促進策を講じていく。 地域内フィーダー系統としての認知度の向上を図り、公共交通の相互連携に配慮した取り組みを推進していく。
南総タクシー株式会社		<p>計画どおり平成26年4月から市内全域の本格運行に移行した。</p> <p>運行車両台数については、平成27年1月から4台体制(1台増便)に移行させる予定であったが、利用者数等を踏まえて総合的に検討を重ねた結果、3台体制のままで運行を継続していくこととした。それに伴って、定量的な目標数値について平成26年12月に変更を行った。</p>		<p>【変更目標数値】(平成26年12月変更) ※運行車両台数変更 1日当たり利用者数 ・平成27年1月から平成27年9月まで 45人 (運行車両台数 3台)</p>	
関口タクシー有限会社		<p>誰もが安心して利用しやすい公共交通の環境を実現するため、ユニバーサルデザインタクシーを一部導入した。 曜日・時間帯によって利用が集中した場合は、一時的に増便を行った。</p>		<p>【結果】 1日当たり利用者数 ・平成26年10月から平成26年12月まで 38人 (運行車両台数 3台) ・平成27年1月から平成27年9月まで 42人 (運行車両台数 3台)</p>	
小川タクシー有限会社				<p>利用者は増加してきているものの、目標数値は達成することができなかった。 ・乗合率が低調である。 ・電話予約時のつながりやすさに不便を感じている(特に午前中に電話予約が集中する。)</p> <p>公共交通不便地域の解消、東千葉メディカルセンター(平成26年4月開院)への交通アクセスの確保により、利便性の向上が図られた。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 勝浦市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
小湊鉄道株式会社	勝浦市予約制乗合タクシー (上野地区、上大沢地区、小松野地区、大楠地区及び松部・串浜地区の一部)	初回のため該当なし	A	事業は計画どおり適切に実施された	B 乗車率は目標である19人/日に対し、結果は16.3人/日となり目標には達しなかった。この理由としては、運行を開始して間もないことから利用に戸惑いが生じたと考えられるが、1年を通して乗車率は上昇している。また、利用者アンケートでは、一定の評価を得ることが出来た。	利用者の多い午前中の増便、回数券を発行、要望が多かった土日祝の運行、及び予約方法の改善について検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:長南町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名:(有)長南タクシー 運行系統名:町内全域	長南町全域でドア・ツー・ドア方式	前年度の評価結果を踏まえ、着実に事業を実施している。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	A ・計画年3,630回に対し、4,730回運行し、延べ5,400人の交通手段の確保ができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業を活用し、公共交通空白地域の解消、幹線への接続が出来る交通手段として継続していく。 ・郵送により利用案内を配布したり、積極的に利用促進を図っている。今後も継続してPRをしていく。
事業者名:ゆたか自動車(株) 運行系統名:町内全域	長南町全域でドア・ツー・ドア方式	前年度から利用が増えている事を踏まえ、着実に事業を実施している。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B ・計画年3,630回に対し、2,283回運行となっているが、前年度から119回増となり、延べ2,526人の交通手段の確保ができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業を活用し、公共交通空白地域の解消、幹線への接続が出来る交通手段として継続していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 御宿町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社 小湊鉄道	町内全域をカバーする乗合運行(デマンド型)を地域内フィーダー系統確保維持事業として、平成26年10月1日から実施。これは、ルートを定めず、運行エリア内を乗合で移動するもので、事前予約型・町内全域乗合タクシーとして運行している。	初年度	A (事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。)	B (事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった)	<ul style="list-style-type: none"> ・計画は、1日平均利用者数15人である。(内訳大人(300円10人)と子ども(100円5人)) ・実績は、13.3人ですべて大人である。よって、利用者数は目標を下回ったものの、運賃収入は計画を215,700円上回った。 ・利用者は高齢者が多く、買い物や通勤、通院等に利用されており、日常生活に欠かせない状況になっている。よって、利用者ニーズへの対応と安定した運行を図る必要がある。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:横芝光町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名:有限会社横芝タクシー 運行系統名:横芝光町デマンドタクシー	横芝光町デマンド(乗合)タクシー(町内全域)		●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 A ・利用者からのご意見や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	【利用者数】 目標である循環バス1,840人/月、乗合タクシー1,870人/月に対し、平成27年度の平均利用者は、循環バス1,214人/月、乗合タクシー948人/月となっており目標は達成していないが乗合タクシーについては導入後1~2カ月の利用者数が少なかったものであり、現在は1月あたり約1,200人の利用者数となっている。 C 【公共交通に関する満足度】 目標値は満足度40%以上とするとしているが、今回地方創生のアンケートを実施したが満足度を計るアンケート内容としなかったため達成度を計るここができなかった。しかし、公共交通についての必要度を計る問いでは必要であるが51.6%と半数以上の方が回答している。	【循環バス】 ・65歳以上の運転免許返納者に対する割引制度の導入などを実施し新たな利用者を確保する。 【乗合タクシー】 ・65歳以上の運転免許返納者に対する割引制度の導入や回数券の販売を行い新たな利用者の確保をするとともにリピーターの確保に努める。 ※利用者数の目標値については、当初設定時の数値が過大であったため、平成28年度生活交通確保維持改善計画においては目標値の見直しを行いました。
事業者名:房総自動車有限会社 運行系統名:横芝光町デマンドタクシー			●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 A ・利用者からのご意見や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。		
事業者名:両総観光株式会社 運行系統名:横芝光町デマンドタクシー			●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 A ・利用者からのご意見や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 鴨川市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
鴨川日東バス株式会社	①北ルート 金山ダム～鴨川駅西口～鯛の浦 (~5/30) ②北ルート 金山ダム～鴨川市役所～鴨川駅西口 ③南ルート 曾呂終点～鴨川駅西口～鴨川駅前 ④南ルート 曾呂終点～江見小学校～鴨川駅西口 ⑤南ルート 浦の脇～東条病院～鴨川駅前 ⑥清澄ルート 奥清澄～天津駅前～天津小湊支所	前回の事業評価結果なし	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 利用目標18,745人/年に対し、実績では19,101人/年であった。 内訳は以下のとおり ・北ルート 実績 8,053人/年 対前年比 99.8% ・清澄ルート 実績 3,872人/年 対前年比 95.7% ・南ルート 実績 7,176人/年 対前年比 114.7%	「鴨川市地域公共交通網形成計画」に基づき、今後も利用状況の把握や利用者の意見聴取等を継続的に実施し、必要に応じてダイヤ等の見直し・検討を行うとともに、利用促進の取組に努める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:大島町交通対策協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大島旅客自動車株式会社	大島町デマンドバス ・北部循環線 ・南部循環線	初年度事業のため、今回の事業評価がはじめてとなります。	B 車両購入及び準備の遅れにより、H27年11月17日から事業開始となった。	B ・北部循環線の利用者数が目標を大幅に下回る。 ・南部循環線は利用者の増加傾向	コース周辺の住民に対し、利用促進の周知を図る。
大島旅客自動車株式会社	車両減価償却費等国庫補助金	初年度事業のため、今回の事業評価がはじめてとなります。	B 車両購入及び準備の遅れにより、H27年11月17日から事業開始となった。	A	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 檜原村地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大谷商事(有) 運行系統名: 神戸線	神戸園入口～郷土資料館	利用促進策として路線バスの通学利用やシルバーバスでの利用等の実態について定量的に把握するため、OD調査を実施した。又、移動制約者の外出・交通ニーズを把握・分析し、運行システムやサービス水準の改善等を図り、需要(利用)を開発してバス交通を活性化することを目標とした。	B 事業は概ね適切に実施された。・地域一体となった取組みを通じて利用者促進を図っているが、少子・高齢化により通学に利用する児童・生徒数が減少しており、平成27年9月末での利用者数は1日平均13.4人であり、全体に減少している。地域住民にとって重要な交通機関であり、村内公共交通の見直し、改善を図りながら、来年度以降も継続していきたい。	B 1日平均利用者数は、13.4人(対前年度比23.4%減)1本当たりの乗車目標は2人に対して1.3人となったが、児童・生徒数の減による通学利用の減少によるものである。利用者数は減少しているが、地域住民の通院、通学、買い物等、日常生活に必要な地域内交通移動を維持し、地域を活性化させる目標については充足されており、幹線へ接続できる交通手段の確保ができた。	・維持可能な公共交通とするためには、地域住民の自主的・積極的な利用が不可欠であり、今後も利用促進に係る啓発等を推進していくとともに、より一層の環境整備を行う。・OD調査等の結果を参考に基盤バス路線のダイヤ改善等、村内公共交通の見直し、改善を実施する。
(有)横川交通 運行系統名: 藤倉線	上白岩～藤倉バス停	利用促進策として路線バスの通学利用やシルバーバスでの利用等の実態について定量的に把握するため、OD調査を実施した。又、移動制約者の外出・交通ニーズを把握・分析し、運行システムやサービス水準の改善等を図り、需要(利用)を開発してバス交通を活性化することを目標とした。	B 事業は概ね適切に実施された。・地域一体となった取組みを通じて利用者促進を図っているが、対象地域における人口減少と高齢化が更に進んだことで利用者が減少している。平成27年9月末での利用者数は1日平均4.3人であるが全体に減少している。地域住民にとって重要な交通機関であり、村内公共交通の見直し、改善を図りながら、来年度以降も継続していきたい。	B 1日平均利用者数は、4.3人(対前年度比10.6%減)1本当たりの乗車目標は1.3人に対して0.46人となったが、対象地域の人口減少と利用者の高齢化によるものである。利用者数は減少しているが、地域住民の通院、通学、買い物等、日常生活に必要な地域内交通移動を維持し、地域を活性化させる目標は充足されており、幹線へ接続できる交通手段の確保ができた。	・維持可能な公共交通とするためには、地域住民の自主的・積極的な利用が不可欠であり、今後も利用促進に係る啓発等を推進していくとともに、より一層の環境整備を行う。・OD調査等の結果を参考に基盤バス路線のダイヤ改善等、村内公共交通の見直し、改善を実施する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 秦野市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社愛鶴	<p>【湯の沢線】 ● 渋沢駅北口～湯の沢終点(4.8km) ・平日: 渋沢駅発5便、湯の沢終点発11便</p> <p>【みくるべ線】 ● 渋沢駅北口～渋沢駅北口(循環・11.6km) ・平日: 8便 ● みくるべ榎戸～渋沢駅北口(6.7km) ・平日: 1便</p> <p>【柳川・八沢線】 ● 渋沢駅北口～八沢沢ノ下(5.3km) ・平日: 渋沢駅発3便、八沢沢ノ下発4便</p>	<p>平成23年10月から実証運行を開始した上地区乗合自動車(愛称: 行け行けぼくらのかみちゃん号)は、地域住民及び運行事業者とも協議を行い、平成26年10月1日から事業者の自主運行事業として本格運行へ移行した。本格運行に当たっては、これまでの利用実績及び運行事業者の意向を踏まえて、持続可能な公共交通とする必要があるため、運行の効率化を図るとともに、利用者の少ない時間帯の運行便数を削減するなど、ダイヤの変更を行った。</p>	A	B	<p>継続目標に近づくため、上地区公共交通協議会を中心に、引き続き改善策の検討を進め、下記の施策を実施するとともに、平成28年度は、今年度の運行実績である3.20人/便を超える利用者数を目指す。</p> <p>○利用者数増加施策 小児運賃については、市内の民間バスに同様の制度があることから、本事業においても引き続き割引を実施する。 (当該事業年度以降の取組み) ・平成27年10月1日から14人乗り車両(乗客定員13人)を1台導入。 ・平成28年4月から自由降車区間の設置、小・中学生定期乗車券の導入(実証実験)を予定。</p> <p>○持続可能な運行の基盤づくりに向けた取組み 運行事業者との調整のもと、本事業以外の路線においてもダイヤ改正の実施など、乗合タクシー事業全体における収支改善を図る。さらに、収支率向上を目指して、広告収入や地域住民からの協力金など運賃以外の収入源の確保も検討していく。また、上地区の現況(人口減少)を考慮し、目標の見直しも検討していく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 相模原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
山口自動車株式会社	吉野・与瀬地区乗合タクシー	新規事業により該当なし	A	計画どおり事業は適切に実施された。	【目標】 稼働率50%、1便あたり利用者数1.5人、年間利用者数1,450人 【平成26年10月～平成27年9月実績】 稼働率59.8%、1便あたり利用者数1.8人、年間利用者数2,046人	利用者の増加や稼働率の向上を目指し、今後も、利用促進に取り組む。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 中井町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社湘南神奈交バス	<p>運行系統名: 中井町オンデマンドバス(通称: 中井ふれあいバス)</p> <p>運行区域: 中井町内全域(乗降ポイント121箇所)と町外5箇所を対象としたデマンド型交通システム(区間運行型)</p>	<p>公共交通空白地域の解消だけでなく、町全体の魅力を高め、定住・交流を促進するまちづくりのツールとして、平成25年1月10日から実証運行している中井町オンデマンドバスについて、地域の需要に合致した運行サービスの見直し・改善(運行エリアや乗降ポイント、予約方法等)を重ね、持続可能な地域公共交通システムとなるよう見直しを行っていく計画となっている。</p>	<p>A 平成27年3月に運行内容の見直しを行った。路線バスの廃止・減便に伴う代替の乗降ポイントの設置、また、利用の少ない夜間時間帯の運行を短縮して、代わりに朝の運行時間帯を拡充させたことで、利用者の拡大に繋がっていることから、計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>B 平成27年度(平成27年9月末現在)の利用者数は、44.6人/日まで伸びていることから、事業は着実に定着してきており、当初目標とした30人/日以上を上回っている。 平成27年度(平成27年9月末現在)の登録者数は、2,616人で、平成27年度の目標とした2,600人を、わずかに上回ることができた。</p>	<p>利用者は徐々に増加しているが、新規登録の利用が鈍化していることから、引き続き登録・予約等の抵抗を軽減させるため、周知活動を継続的に行ない、以前より町民にニーズが高い鉄道駅への乗入れや生活スタイルに合わせた運行等、今後も利用状況の検証や町民の利用ニーズの把握を行いながら、近隣自治体等関連機関との連携も模索し、より利用される運行計画の検討を進める。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 都留市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
富士急山梨バス(株) 市内循環線	谷村・三吉地域	増加傾向だった利用者がほぼ横ばいとなり、利用環境を整備するため、ダイヤの調整、バス停の名称変更を検討した。	A	計画通り適切に運行された	B 年間利用者数の目標16,500人に対し、10,842人であった。	ダイヤ改正やバス停の名称変更により利用しやすい環境を整備するとともに、継続的な周知を行う。
富士急山梨ハイヤー(株) 東桂線	東桂地域	伸び悩んでいる利用者の増加を図るため、空白地帯の夏狩地区の運行及び鉄道駅への接続を検討した。(H27.10月開始)	A	計画通り適切に運行された	C 1台あたりの平均乗車人数の目標2.5人に対し、1.2人であった。	平成27年10月から空白地帯となっていた夏狩地域の運行開始を含め、利用者増加策を検討する。
富士急山梨ハイヤー(株) 盛里線	盛里地域	利用者は順調に増加しているため、盛里地域だけでなく、経由地となっている禾生地域への周知を検討した。(平成27年10月から禾生・盛里線とした)	A	計画通り適切に運行された	B 1台あたりの平均乗車人数の目標2.5人に対し、1.6人であった。	全体の利用者は増加しているが、利用者が少ない便のダイヤ改正を検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 中央市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
山交タウンコーチ株式会社 「中央市役所田富庁舎～シルクふれんどりい線」	「中央市役所田富庁舎～JR小井川駅～山梨大学医学部附属病院～中央市役所玉穂庁舎～JR東花輪駅～中央市役所豊富庁舎～シルクふれんどりい」間を運行	利用者増を目指し前年度以上の啓発事業を行った。又、コミュニティバスの愛称を募集し市商工会ゆるキャラのとまチュウから「とまチュウバス」と決定。加えてバスにとまチュウのラッピングを施工した。	A 計画とおり事業は適切に実施された。	B 目標値である年間利用者数10,000人に対し、8,989人(89.9%)であるが、市内を広域的に結び付け、市役所・病院・買物等の移動方法として、公共交通の空白地域の解消を計り、JR・その他路線バスへの接続する交通手段として確立している。	目標値の年間利用者数は下回ったものの、前年度より利用者数は約500人増えており、今後の少子高齢化による高齢者の利用性。及び、児童等の低年齢者へ公共交通の浸透が図れるよう、今後も継続し運行することとしたい。利用率の向上に向けてはコミュニティバスを利用したミニツアー等を企画し、今後の利用者数増加へ努める。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 笛吹市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者名: 山梨第一交通(株) 運行系統名: 笛吹市デマンドタクシーみさかルート</p>	<p>御坂町若宮地区(旧若宮公民館)～石和町駅前地区(JR石和温泉駅)</p>	<p>・利用促進及び利用者の増加を図るため、利用者ニーズに沿った運行を検討し、平成27年10月1日から金融機関への乗り入れを実施。</p>	<p>A</p> <p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。</p> <p>・欠便や大きな遅延もなく、運行計画に沿った適切な事業が行われた。</p> <p>・利用目標には到達しないものの、利用登録者数は順調に伸びていることから、交通空白地域における高齢者などの日常生活に必要な移動手段の確保という点では効果を得ている。</p> <p>・石和温泉駅利用者が全体の21%を占めることから、幹線系統へのアクセス向上等による広域的な移動を可能にしたという点で成果を得ている。</p>	<p>B</p> <p>■1日当たり乗車人数 目標16.6人に対し15.7人 乗車人数については、目標値に近い数値となっているが、目標値に届いていない。利用状況の検証と利用者ニーズに沿った運行内容となっているか検証が必要</p> <p>■収支率(運賃収入/運行経費) 目標16.1%に対し15.5% 目標値に届いていない。利用人数低迷の影響を直接受けた形</p>	<p>・地域住民への周知については、あらゆる広報媒体を活用したり、地域へ出向いて説明を行うなど、継続的な利用促進と利用者増に努めたい。</p> <p>・今後も引き続き利用実態に注視し、デマンド型交通という小回りのきいた運行形態の利点を活かして、利用者ニーズに沿った効果的な運行となるよう必要な改善を図っていく必要がある。</p>
<p>事業者名: 日之出観光自動車(株) 運行系統名: 笛吹市デマンドタクシーふじみルート</p>	<p>石和町富士見地区(河内公民館)～石和町駅前地区(JR石和温泉駅)</p>	<p>・利用促進及び利用者の増加を図るため、利用者ニーズに沿った運行を検討し、平成27年10月1日から高齢化率の高い地域へのエリア拡大を図るとともに、高齢者の利用が多い公共施設(温泉施設)や金融機関への乗り入れを実施。</p>	<p>A</p> <p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。</p> <p>・利用目標には到達しないものの、利用登録者数は順調に伸びていることから、交通空白地域における高齢者などの日常生活に必要な移動手段の確保という点では効果を得ている。</p> <p>・石和温泉駅利用者が全体の15%を占めることから、幹線系統へのアクセス向上等による広域的な移動を可能にしたという点で成果を得ている。</p>	<p>B</p> <p>■1日当たり乗車人数 目標9.2人に対し7.2人</p> <p>乗車人数については、目標値に届いていない。さらに利用状況の検証と利用者ニーズに沿った運行内容見直しが必要</p> <p>■収支率(運賃収入/運行経費) 目標12.6%に対し8.0% 目標値に届いていない。利用人数低迷の影響を直接受けた形</p>	<p>・石和地域全体を1台の車両がカバーする必要上、定時定路線型の運行スタイルでは複雑なルート設定にならざるを得ず、これらが利用促進を妨げている可能性があるが、タクシー事業者との協調による公共交通の維持改善を図る前提の中では、フルデマンド化は想定していない。</p> <p>・こうした中、平成27年10月1日から高齢化率の高い地域へのエリア拡大を図るとともに、高齢者の利用が多い公共施設(温泉施設)や金融機関への乗り入れを行い、運行内容の見直しを行った。</p> <p>・地域住民への周知については、あらゆる広報媒体を活用したり、地域へ出向いて説明を行うなど、継続的な利用促進と利用者増に努めていきたい。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 上野原市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社 駅前タクシー	第1.1地域(桐原方面)	※事業開始が事業評価前のため、平成26年9月までの課題等を踏まえ計画等に反映した内容を記載	A ◆利用者数:1,854人/年 :7.76人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	A 【目標】 ◆利用者数/日を実証運行開始後から平成26年5月までの数値の105%に	◆交通弱者の移動手段確保等のため、今後も市の財政負担を抑制しつつ、効率的かつ持続可能な公共交通の確保・維持に取り組んでいく必要があるが、利用登録者数は微増の状況となっている。そのため、利用者数の劇的な増加は、難しくなっている。よって、目標値の設定にあたっては、平成28年度の利用動向も注視しながら、増加率を抑えた設定としたい。【平成28年度は増加率を105%に設定済み】 ◆現在進行中の上野原駅周辺の整備に伴い、今後、市内の路線バスの発着の起終点が上野原駅北口から南口に移転する予定となっている。その移転時に、市内の路線バスとデマンドタクシーの再々編が可能となるよう、運行事業者と協議会事務局の定例会をはじめ、その他の関係者とも協議を行う中で具体案を検討していきたい。 ◆市の長期総合計画とも調整を図りながら、地域公共交通網形成計画を作成していきたい。
富士急山梨バス 株式会社	第1.2地域(西原方面)	◆利用実態のデータ蓄積・分析を継続実施 ◆指名競争入札により各運行システムの運行事業者を決定(第1.1地域・第2地域・第3地域は前年度と同じ事業者、第1.2地域・第4地域は事業者交代)	A ◆利用者数:3,574人/年 :15.02人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	A 【達成状況】 ◆利用者数/日は、第2地域(大鶴・甲東方面)を除き増加したが、目標達成に至らない系統が2系統あった。 ○第1.1(桐原) 106.3% ○第1.2(西原) 136.3% ○第2(大鶴・甲東) 90.9% ○第3(大目・巖) 121.7% ○第4(島田・秋山) 104.9% ○全系統合計 110.3%	
上野原タクシー 株式会社	第2地域(大鶴・甲東方面)	◆利便性向上のため、停留所8箇所を追加設置(中心市街地 15箇所→16箇所、各地域 307箇所→314箇所)	A ◆利用者数:3,618人/年 :15.14人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	C	
有限会社 四方津交通	第3地域(大目・巖方面)	◆運行事業者と協議会事務局の月1回の定例会議を継続実施	A ◆利用者数:3,585人/年 :15.00人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	A 【分析】 ◆利用者数/日は、H25年度:64.12人、H26年度:64.69人、H27年度:67.33人と着実に増加。 ◆事業規模が小さいため、毎日のように頻繁に利用される方の有無・増減による利用者数への影響が非常に大きい。 ◆利用者の約9割が60歳以上で、利用停留所から推察すると「通院+買い物」で利用する率が高い。	
有限会社 島田交通	第4地域(島田・秋山方面)		A ◆利用者数:3,447人/年 :14.42人/日 ◆交通空白地域の解消や交通弱者を中心とする市民の移動手段の確保などが図られた。	C	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 甲州市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
甲州タクシー(株)	甲州市塩山地域(松里、奥野田、市街地)を運行	前回の評価結果を受け、バス利用者を対象に市内公共交通に関するアンケート調査を実施し、利用状況や料金体系の満足度について調査した。その中でデマンド交通の利用方法等、路線バスとの違いが分からないとの意見が寄せられたため、時刻表冊子の中に比較表を掲載し、利用者へ再度周知するとともに新規登録者の確保を図った。	A 生活交通確保維持改善計画に基づく事業が適切に実施された。	A 【区域】 【目標】 【実績】 松里区域 19.6人/日 17.6人/日 奥野田区域 17.9人/日 19.4人/日 市街地区域 20.2人/日 22.1人/日	一部利用者のための公共交通にしないためにも、今後は新規利用者を増やため、デマンド交通の利用、特にデメリットについて地区の集会等で直接的且つ丁寧な利用啓発が必要である。 利用人数が増加した区域については、利用者間での口コミが新規登録者の増加に繋がっているためである。今後も利用増が予想されるため、定時性を確保したサービスの提供を維持していく。
塩山タクシー(株)	甲州市塩山地域(玉宮、神金・大藤区域)を運行	前回の評価結果を受け、バス利用者を対象に市内公共交通に関するアンケート調査を実施し、利用状況や料金体系の満足度について調査した。その中でデマンド交通の利用方法等、路線バスとの違いが分からないとの意見が寄せられたため、時刻表冊子の中に比較表を掲載し、利用者へ再度周知するとともに新規登録者の確保を図った。	A 生活交通確保維持改善計画に基づく事業が適切に実施された。	A 【区域】 【目標】 【実績】 玉宮区域 16.5人/日 17.4人/日 神金大藤区域 17.8人/日 17.8人/日	一部利用者のための公共交通にしないためにも、今後は新規利用者を増やため、デマンド交通の利用、特にデメリットについて地区の集会等で直接的且つ丁寧な利用啓発が必要である。 利用人数が増加した区域については、利用者間での口コミが新規登録者の増加に繋がっているためである。今後も利用増が予想されるため、定時性を確保したサービスの提供を維持していく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:富士川町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通確保維持改善事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(有)青柳タクシー 平林エリア(乗合バス型)	「小室～青柳町」を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	<p>乗合バス型については、ほぼ計画どおり運用され、利用者の満足度も良好である。引き続き利用実績の向上のため地域の意見を聞き取り組んでいきたい。</p> <p>エリアの広さを考えると、現在の運行本数は適切であり、時間間隔については運用でカバーしていきたい。また、地域の要望を踏まえ運行形態の見直しについて検討していく。</p> <p>乗合バス型については、ほぼ計画どおり運用され、利用者の満足度も良好である。引き続き利用実績の向上のため地域の意見を聞き取り組んでいきたい。</p> <p>エリアの広さを考えると、現在の運行本数は適切であり、時間間隔については運用でカバーしていきたい。また、地域の要望を踏まえ運行形態の見直しについて検討していく。</p> <p>エリアの広さを考えると、現在の運行本数は適切であり、時間間隔については運用でカバーしていきたい。また、地域の要望を踏まえ運行形態の見直しについて検討していく。</p>
(有)青柳タクシー 平林エリア(デマンド型)	旧増穂町エリア(小室方面)を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 利用者の状況を考慮し運行形態を設定しているため、事業は適正に実施されている。	A	
(有)豊栄タクシー 小室エリア(乗合バス型)	「平林～青柳町」を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	
(有)豊栄タクシー 小室エリア(デマンド型)	旧増穂町エリア(平林方面)を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 利用者の状況を考慮し運行形態を設定しているため、事業は適正に実施されている。	A	
(有)鰻沢タクシー 十谷エリア(デマンド型)	旧鰻沢町エリア(十谷方面)を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 利用者の状況を考慮し運行形態を設定しているため、事業は適正に実施されている。	A	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:身延町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
山交タウンコーチ(株) (株)身延タクシー (有)中富タクシー	・運行区域 身延地区 下部地区 中富地区 一部町外(市川三郷町岩間)	前回、未達成の項目を中心に目標を設定	A	計画通り、適切に実施された。	B ・乗合タクシー利用者数 目標:17000人 結果:16591人 ・乗合タクシー1台追加 目標:5台 結果:5台 ・バス路線の見直しの検討 目標:5路線 結果:6路線	・民間路線バス、町営バス等と連携し、より利用しやすい公共交通を目指す必要がある。 ・住民に運行目的、利用方法等を理解してもらため、広報等を充実させる必要がある。 ・より利用しやすく、地域にあった公共交通をめざし、整備を進めていく。

平成27年度 地域公共交通調査事業（計画策定事業）一覧

【地域公共交通調査事業(計画策定事業)】

都県	市町村	協議会名
茨城県	大子町	大子町地域公共交通会議
	常陸太田市	常陸太田市地域公共交通活性化協議会
	日立市	日立市公共交通会議
	水戸市	水戸市都市交通戦略会議
	下妻市	下妻市地域公共交通活性化協議会
	かすみがうら市	かすみがうら市地域公共交通会議
	行方市	行方市地域公共交通協議会
	稲敷市	稲敷市地域公共交通会議

都県	市町村	協議会名
栃木県	大田原市	大田原市地域公共交通会議
	茂木町	茂木町地域公共交通会議
	真岡市	真岡市地域公共交通活性化協議会
埼玉県	熊谷市	熊谷市地域公共交通会議
	鳩山町	鳩山町地域公共交通会議
千葉県	八街市	八街市地域公共交通協議会
	東金市	東金市地域公共交通会議
	大多喜町	大多喜町地域公共交通活性化協議会
	君津市	君津市地域公共交通会議
山梨県	甲州市	甲州市地域公共交通会議

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 大子町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<ul style="list-style-type: none">・公共交通の利用実態・ニーズ把握・観光の実態・ニーズ把握・公共交通を取り巻く課題の整理・少子高齢化を見据えた外出環境の再構築が課題・事業としての持続可能性の確保が必要	A		(計画策定に向けた方針) 自家用車を使わなくても生活できる持続可能な外出環境の提供

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:常陸太田市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【調査の内容】</p> <p>1. 公共交通の利用実態・ニーズ把握調査の実施</p> <p>①既存資料及びデータの収集・整理・分析</p> <p>②交通事業者等ヒアリング調査</p> <p>③市民アンケート調査(1,000人送付、地区(4地区)250人)</p> <p>④市民(移動制約者)へのヒアリング</p> <p>2. 公共交通の現況と課題の整理</p> <p>①地域特性の整理</p> <p>②公共交通の実態把握</p> <p>③公共交通の潜在ニーズ・需要の分析</p> <p>3. 地域公共交通活性化協議会・専門部会の運営支援</p> <p>①資料作成, 議事録作成等</p> <p>②会議への出席</p> <p>【結果概要】</p> <p>○既存資料及びデータの収集・整理・分析等を行い, 地域の公共交通の状況を整理した。</p> <p>○路線バス等のOD調査を実施し, 利用の実態を分析した。</p> <p>○交通事業者へのヒアリングを複数回(6事業者, 12回)実施し, 現在の課題, 今後の再編事業の実施可能性等について把握することができた。</p> <p>○市民アンケート調査(486人回答)の実施により, 市民ニーズを把握することができた。</p> <p>○市民(移動制約者)へのヒアリングの実施により, 真に公共交通を必要としている市民のニーズを把握することができた。</p> <p>○県内一広い当市の地域特性, 公共交通の実態把握及び潜在ニーズ・需要の分析を行った。</p> <p>○市民への説明, パブリックコメントの結果, 今後の協議会での検討等を経て, 今年度中に「常陸太田市地域公共交通網形成計画」を策定する。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された</p>	<p>地域公共交通調査事業(計画策定事業)を活用して今年度策定する「常陸太田市地域公共交通網形成計画」を基に, 同じく今年度中にサービスエリアの重複, サービス水準の地域間における相違等の問題を解決し, 持続可能な公共交通網を再構築するための「常陸太田市地域公共交通再編実施計画」を策定する。平成28年1月から市民への説明会等を開始し, 平成28年5月頃から, バスの乗り方教室等の公共交通利用促進事業を行う。その後, 平成28年10月から再編実施計画に基づいた新たな運行形態での運行の開始を目指す。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 日上市公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>①地域内公共交通の現況、課題の検証 まちづくりの方針、市街地の特性の分析、交通特性、公共交通政策の取組状況、人口等と利用者数の関係等を分析し、課題を整理</p> <p>②地域住民ニーズ把握 市民アンケート(5千世帯配布)、高校・大学・事業所へのヒアリング等を実施。特に、若年層の通学と高齢者の買物・通院等において公共交通のニーズが高いことが確認できた。</p> <p>③公共交通を軸としたまちづくりの方針の検討 めざすべき姿として、都市構造、公共交通を軸としたまちづくり、公共交通ネットワークを設定し、基本方針を検討。バス事業の成立条件より、市内を4つのエリアに区分し、公共交通の配置、土地利用の方針を位置づけた。</p> <p>④推進方策の検討 公共交通施策、実施プログラム、計画目標、計画の推進体制、評価検証方法等を設定 公共交通施策としては、生活圏を単位としたバス路線の再編、パートナーシップ事業のシステム化等を位置づけた。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	<p>③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針</p> <p>本調査を踏まえて、速やかに日上市地域公共交通網形成計画を策定する予定である。</p> <p>網形成計画の策定後、バス路線再編に関する調査を経て、地域公共交通再編実施計画を策定する。</p> <p>補助対象事業名: 地域公共交通再編推進事業(再編計画策定事業) 事業内容: 再編実施計画の策定に伴う調査 実施時期: 平成29年度</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:水戸市都市交通戦略会議

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上位・関連計画等と水戸市公共交通基本計画の位置付け整理 ・本市の現状整理 ・本市の交通流動の調査・分析 ・交通流動に係わる課題整理 ・基本理念, 目指す将来像, 本計画の目標設定 ・交通施策の検討と公共交通体系(案)の作成 ・関係者間の役割分担を踏まえた実施プログラムの作成 ・報告書の作成 ・協議会開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上位計画及び関連計画との整合及び連携を図り, 水戸市公共交通基本計画(※地域公共交通網形成計画として策定)の位置付けを整理した。 ・人口の動向, 市街地の現状, 市内外の都市活動・交通活動の現状, 公共交通の利用状況, 公共交通に対するニーズについて分析した。その結果を踏まえ, 公共交通の課題, 課題解決に向けた施策の基本的な方向性を整理した。 ・基本理念, 目指す将来像を掲げ, 目指す将来像を達成するための基本方針を設定し, 公共交通ネットワーク形成の方向性を整理した。 ・目指す将来像の実現に向け, 基本方針, 基本施策に基づき, 重点施策を位置付け, 施策体系を整理した。また, 重点施策の実施主体や実施時期の目標を実施プログラムとしてまとめた。 ・水戸市都市交通戦略会議の全体会議, 専門部会(交通体系部会, 利用促進部会), 市役所庁内組織での会議等を開催し, 協議を実施した。 ・以上を踏まえ, 水戸市公共交通基本計画(案)をとりまとめた。 	<p>A 事業は適切に実施されている。</p>	<p>事業結果を踏まえ, 今年度, 地域公共交通網形成計画として水戸市公共交通基本計画を策定する。 当該計画に基づき, 来年度, 地域公共交通再編実施計画を策定し, バス路線の再編を中心に, さらなる検討を進めるとともに, 利用促進や利便性の向上に取り組む。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:下妻市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
新規に導入する地域公共交通について、ルート、運賃、事業主体等を具体化し、事業計画を作成するとともに、下妻市地域公共交通網形成計画の策定を進めている。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	調査事業を踏まえ、平成27年度中に地域公共交通網形成計画を策定する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:かすみがうら市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>市民アンケート調査や利用者アンケートなど、地域住民の移動実態を調査するとともに、地域公共交通の問題点と課題を整理し、新たな公共交通施策を体系的に整理した。</p> <p>調査結果として、公共交通の必要性の高い主体は、学生を含む低年齢層と高齢者で、JR神立駅を周辺の中心市街地に市民移動が発生・集中しているとともに、土浦市内の病院への移動ニーズが高い結果となり、次の目標ごとに具体的な取り組みを行っていく。</p> <p>目標1:中心市街地へのアクセス向上 目標2:郊外の移動手手段の確保 目標3:広域連携の推進 目標4:多様な交通機関相互の連携・強化 目標5:公共交通を支える体制づくり</p>	A	<p>必要な調査事業を行い、計画通り適切に実施された。</p>	<p>公共交通体系の根幹となるべき次の4事業を重点プロジェクトとして位置付け、短期的・優先的に取り組む施策に設定する。</p> <p>「神立駅アクセス路線の新設」 「乗合タクシーの再編」 「霞ヶ浦広域バスの拡充」 「交通結節機能向上と地域公共交通との連携」</p> <p>なお、この4つの事業は再編事業として平成28年度に具体的な事業計画の検討を進める。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:行方市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>市民アンケート, 路線バス・高速バス利用者, 乗合タクシー利用者, 市内従業者, イベント来場者の調査を実施しており、協議会は現在までで5回と適宜開催している。</p>	<p>A</p>	<p>事業スケジュールどおり適切に実施されている。</p>	<p>○補助対象事業名:平成27年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域公共交通調査事業(計画策定事業)) ○事業内容:行方市地域公共交通網形成計画策定 ○実施時期:完了予定日平成28年3月31日 ○計画策定の方針:まちづくりと連携し、市民だけではなく、来訪者が利用でき、市内拠点とのネットワーク化だけではなく市外拠点にもアクセスできる、持続可能な公共交通ネットワークの形成</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:牛久市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>(1)公共交通の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度に策定した地域公共交通総合連携計画の基本方針・施策について概ね実現されているが、郊外の移動性については必ずしも進んでいないことが確認された。 ・市民アンケートにより、若年層、高齢者の移動において公共交通の必要性が高いことが把握できた。 <p>(2)目標・基本方針の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めざすべき姿として、「誰もが移動手段を確保でき、維持していくことができる公共交通体系」を設定した。 ・基本方針として、立地適正化計画と整合するかたちで、市街化区域及び郊外団地では定時定路線型、その他の郊外ではデマンド型の公共交通を配置する方針を位置づけた。 <p>(3)公共交通施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通施策の検討を進めている段階であるが、人口が増加するひたち野うしく駅周辺での新規路線配置・バス路線網の再編と、郊外のデマンド型交通の導入ルールを重点プロジェクトとして位置づける予定である。 <p>(4)推進方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通施策の検討後、実施主体、実施時期等、計画の成果の検証体制・方向等を位置づける予定である。 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>地域公共交通網形成計画に向けた調査が適切に実施できた。</p>	<p>本調査を踏まえて、速やかに牛久市地域公共交通網形成計画を策定する予定である。</p> <p>網形成計画の策定後、地域公共交通再編実施計画を策定する。</p> <p>補助対象事業名:地域公共交通再編推進事業(再編計画策定事業) 事業内容:再編実施計画の策定に伴う調査 実施時期:平成28年度</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 稲敷市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】○現況データ等の収集、整理 ○住民意識の収集、整理 ○市内公共交通の問題点・課題の整理 ○公共交通会議の開催</p> <p>【結果概要】住民アンケートを実施中の為、住民の意識は整理できていないが、現況データの分析や問題点課題点の整理、交通会議の開催から、利用者ニーズとのアンマッチング、利用促進不足が確認できた。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>平成27・28年度で地域公共交通網形成計画を策定するため、今年度は交通会議の開催、現状調査分析・今後の公共交通の方向性の確認、交通事業者ヒアリング、住民アンケート等を実施しており、概ね計画どおりである。</p>	<p>地域の実情に合った公共交通網の形成や、近隣自治体や都市圏との交通ネットワークの構築をめざし、まちづくりとの連携や利用促進等も含めた、公共交通を取り巻く環境の整備を考慮した計画を策定する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 大田原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 大田原市地域公共交通網形成計画策定調査業務

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>大田原市地域公共交通総合連携計画の次期計画である「網形成計画」を策定するに当たり、事前に調査業務を行うものであり、平成28年1月29日現在においてまだ次の調査の集計等を行っているが、当初の計画どおり期限内には終了する見込みである。</p> <p>○業者選定方法:プロポーザル方式 ○契約期間:H27.10.7~H28.3.18 ○調査項目及び進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現況路線バス及びデマンド交通の実態検証 対象路線5路線…調査日12/4、回答数2,014票 ・公共交通利用者の事業評価検証 路線バス…調査日12/4~14、配布数920、回答数110 デマンド…調査日12/7~28、配布数300、回答数40 ・市民生活交通ニーズ把握 市民アンケート(無作為抽出)…調査日12/18~28、配布2,000、回答893 ・那須赤十字病院ヒアリング調査 病院内ヒアリング…調査日12/4、回答数104票 ・調査済高校生アンケートの分析 ・隣接市町調査による大田原市への移動ニーズ把握 	<p>A</p> <p>○事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現況実態把握 ・上位関連計画の整理 ・先進自治体の状況把握 ・網形成計画策定に向けた論点整理 	<p>大田原市地域公共交通総合連携計画に基づき構築された現在の公共交通網は、当初の計画では利用者の利便性向上とともに運行経費の削減が図れると考えていたが、利便性は向上したものの経費の削減には至らなかった。</p> <p>その総合連携計画の課題・評価を検証し、次期計画である網形成計画では、行政サービスを低下させずに運行経費の削減に向けた新たな対策を考慮するほか、中心市街地再開発事業による都市計画道路の完成を予定していることから、中心市街地の活性化に向けての新たな路線改編、デマンド運行の新たな区域の検討し、路線バスとデマンド運行のバランスのとれた公共交通体系を構築する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 茂木町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>公共交通の利用者は、通勤・通学や業務などで時間制約のある方、あるいは、時間制約が無くいつでも自由に乗車できる方、個人利用や少人数から団体利用など様々なケースがあり、需給バランスの観点からはこれに応じた輸送力を持つ公共交通が必要です。本町では、利用者の移動目的に応じた地域公共交通による移動サービスが提供されるよう、それぞれの機能・特性を明確化するとともに、民間公共交通と町営公共交通が共存できる公共交通体系の構築を目指します。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	<p>補助対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画推進事業) 事業内容: 茂木町公共交通計画策定調査業務 ・町内公共交通網の効率的見直し案の検討 ・地域公共交通網形成計画のとりまとめ ・協議会開催 実施時期: 平成27年5月11日～平成28年3月31日 計画策定の方針: 茂木町の将来都市構造における地域間連携軸のあり方を踏まえ、都市活動拠点、生活拠点、観光交流拠点などの拠点間を結ぶ公共交通軸を設定します。地域内の公共交通網においては、町内の5つのエリア(市街地エリア、茂木エリア、須藤エリア、中川エリア、逆川エリア)をそれぞれ自由に行き来できるよう、デマンド交通により地域間の移動軸を確保します。市街地エリアと郊外部エリアとの結びつきをより強くし、市街地への誘客やにぎわい創出などのまちづくりの目標に合致する地域公共交通網の形成を目指します。また、町外からの来訪者が多いツインリンクもてぎなどの観光交流拠点は、茂木駅から幹線バスやタクシーに乗り換えてアクセスすることが主な移動手段となることから、駅での交通結節機能の充実を図り、連携のとれた地域公共交通網の形成を目指します。なお、町外へのデマンド交通による移動は、タクシー事業との機能の棲み分けを行い、現行以上に町外の乗り入れ施設数を増やさないものとします。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:真岡市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③地域公共交通網形成計画の計画策定に向けた方針
<p>【事業概要】 (1)市民意識調査 ・公共交通に対する意識や利用状況などを把握するため、市民2,000人を対象にアンケート調査を実施した。 (2)公共交通利用者調査 ・いちごタクシーの利用状況や満足度などを把握するため、利用者を対象にアンケート調査を実施した。 (3)PT調査、人口分布等の分析 ・栃木県の県央地区(7市7町)を対象に実施したパーソントリップ調査結果を分析した。 ・市内の町丁目別ごとの70～89歳人口の動向を推計・分析した。 (4)関係機関や事業者等へのヒアリング調査 ・交通事業者(バス・タクシー)と芳賀赤十字病院に対して、現況や今後の方針についてヒアリングを実施。</p> <p>【結果概要】 ・市民の日常の買い物や通院の目的地は中心市街地(真岡地区)が多くを占めている。 ・今後の地域公共交通の運行については、交通不便地域を中心に利用目的を絞って、サービスの拡充を求める市民が多い。 ・いちごタクシー、コットベリー号の認知度は高まっている。 ・いちごタクシーの利用者は、70歳、80歳代の女性が多く、利用満足度は総じて高い。 ・移動手段の中で、自動車の分担率は8割を占めている。 ・公共交通の利用が多い70歳、80歳代の人口については、2030年に1.4倍にまで増加する見込み。 ・交通事業者等と情報を共有し連携を図りながら事業を実施していくことを確認できた。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり事業は適切に実施されている。 ・今後、協議会において策定する計画案について、パブリックコメントを実施するとともに、住民懇談会を開催し、多くの市民や利用者の意見等を反映させて、地域公共交通網形成計画を策定する。 	<p>【補助対象事業名】 真岡市地域公共交通網形成計画策定調査業務</p> <p>【事業内容(実施時期)】 ・市民意識調査(H27年8月～11月) ・公共交通利用者調査(H27年8月～11月) ・PT調査、人口分布等の分析(H27年5月～11月) ・関係機関や事業者等へのヒアリング調査(H27年8月～11月) ・住民懇談会の実施(H28年1月予定) ・パブリックコメントの実施(H28年1月予定) ・協議会の開催(H27年6月、12月実施。H28年1月、2月予定)</p> <p>【調査結果を受けた計画策定の方針】 (1)市内の公共交通ネットワークを維持・確保し、利用促進を図る。 ・高齢社会の進展に伴い、今後、自動車を自由に使えない交通弱者がさらに増加していくことを踏まえ、生活交通としての公共交通ネットワークを維持・確保する。 ・公共交通の利用促進を図り、持続可能な公共交通とするため、市民、交通事業者、行政などが協働するとともに、地域住民がより主体的に取り組み、地域で公共交通を支える体制づくりを進める。 (2)市民の利便性の向上と地域活性化を図るため、市域を越える公共交通ネットワークを整備する。 ・地域活性化を図るため、公共交通を利用した来訪を促進し、企業や商店街等と協力・連携した事業に取り組むなど、まちづくりと一体となった公共交通ネットワークの整備を推進する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:熊谷市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>事業内容:熊谷市地域公共交通網形成計画を策定する。 事業期間:交付決定日～平成28年3月31日 調査結果:事業の実施に関する計画のとおり進捗しており、予定通り、年度内に策定される見込みである。</p>	B	<p>事項:交通会議を年度内に4回開催する計画だが、現時点で2回となっている。 理由:1回は委員スケジュールにより書面による会議に替え、1回は年度内に開催することとしている。</p>	<p>事業名:熊谷市地域公共交通網形成計画 事業内容:①現況調査、②ニーズ把握、③社会的要因の検証、④網形成計画のとりまとめ、⑤交通会議の開催 実施時期等:①～③は完了、現在④の段階であり、年度内に交通会議を開催する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 鳩山町地域公共交通会議

評価対象事業名: 鳩山町地域公共交通網形成計画策定事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>・鳩山ニュータウン～につさい花みずき間の利用が非常に少なく、町内循環バスは利用者が少ない。 ・北部地域は鉄道駅へアクセスする公共交通がサービスされていない。 ・まちづくりとして今後実施していく拠点整備地区を公共交通でネットワーク化する都市構造が必要。 これら課題等より新たな町営路線バスと民間路線バスを活用し骨格路線形成(活性化拠点連絡及び鉄道駅アクセス)し、路線バスでカバーされない地域の町内移動をデマンドタクシーで確実にサービスする交通体系を目指す。【平成28年1月時点】</p>	<p>A</p>	<p>・調査は計画どおりに進捗し、課題を明らかにすることができた。</p>	<p>・H27年度に、前記の調査内容を進めながら、隣接市町との協議、バス事業者・タクシー事業者と調整・協議を行い、鳩山町地域公共交通網形成計画を策定する。 ・H28年度に鳩山町地域公共交通再編実施計画、生活交通確保維持改善計画を策定し、H29年度から再編実施事業として、民間路線バスの運行ルートの見直し、最終バスの延長等の社会実験や、町内循環バスの運行見直し、北部地域を発着する市町村運営有償運送による町営路線バスの導入を目指す。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:八街市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <p>①現在の路線の利用状況調査 ・八街市内循環バス(ふれあいバス)の乗降客調査:運行事業者が実施する乗降調査結果のとりまとめ及び分析。 ・ふれあいバス利用者アンケート調査(OD調査):ふれあいバス利用者を対象としたアンケート調査(乗車時に配布、回収)。</p> <p>②市民ニーズの把握調査 ・地域ごとの市民ニーズの把握(市内8小学校区9地区での検討会):検討会での現状・課題・再編の考え方の説明、地域ニーズの把握。 ・地域ニーズの取りまとめ。</p> <p>③市内公共交通網の効率的見直し案の検討 ・公共交通再編の前提条件の整理:バス事業者等の再整理、その他前提条件の整理。 ・公共交通の採算性向上策の検討:先進事例の収集・整理、導入可能な採算性向上策の検討。 ・公共交通網(ふれあいバス等)の見直し案の検討。</p> <p>④地域公共交通網形成計画の取りまとめ ・パブリックコメントの実施。</p> <p>⑤協議会開催等事務</p> <p>【結果概要】</p> <p>・事業①及び②を実施し、市民のニーズ及び地域のニーズを取りまとめた。事業①、②の結果に基づき、事業③として、本市の地域公共交通に関する問題、課題を整理し、基本理念「市民生活の利便性を支える利用しやすい持続可能な地域公共交通体系の再構築」のもと、計画目標及び目標を達成するための事業の設定、市内循環バスの再編イメージを作成した。 ・事業③に基づき、事業④として「八街市地域公共交通網形成計画(素案)」を作成した。 ・上記事業を協議するため、八街市地域公共交通協議会を3回開催し、他に書面開催を1回開催した。</p>	<p>事業が計画どおり適切に実施された。</p> <p>A</p> <p>【未実施の事項の今後の予定】 2月に計画(案)についてパブリックコメントを実施し、3月に5回目の協議会を開催し、計画の策定を見込んでいる。</p>	<p>③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針</p> <p>市内循環バスのターミナルを市の中心核であるJR八街駅に移設し、民間路線バスとターミナルを共有することにより、公共交通機関同士の乗り継ぎ強化、また、利便性の向上を図るとともに、市の中心部に市民を集め、まちの賑わい創出に繋げる。</p> <p>ターミナル機能の移設に併せ、市内循環バスの運行ルートを見直し、幹線を走る民間路線バスと支線を走る市内循環バスの役割分担を明確化させる。市内を4つの運行エリアに区分し、車両5台による運行から4台による運行に変更する。これにより、現在の複雑な路線から、市民にとってわかりやすく速達性を高めた路線に再編するとともに市民生活に配慮した運行ダイヤを設定する。</p> <p>バス停まで歩くことが難しい高齢者等の移動手段を確保するため、地域の住民がグループでタクシーを利用する際に支払う運賃の一部を助成するグループタクシー(相乗りタクシー)制度の導入について検討する。地域の住民が声を掛け合い、共同でタクシーを利用することを通して、地域のコミュニティ形成を目指す。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名：東金市地域公共交通会議

評価対象事業名：地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業概要】 まちづくり等の地域戦略と一体的に公共交通の課題に対処していくため、公共交通の現状を調査して、平成23年度に策定した地域公共交通総合連携計画(東金市総合交通計画)の事後評価を踏まえた新たな計画としての地域公共交通網形成計画(第2次東金市総合交通計画)を取りまとめる。</p> <p>【事業内容】 ・地域の現状把握(既存データ・ヒアリング調査等) ・市民アンケート調査(3,000人) ・路線バス等利用者ヒアリング調査 ・デマンド交通利用登録者アンケート調査(1,000人) ・地域公共交通網形成計画の取りまとめ</p> <p>【結果概要】 ・既存データ、ヒアリング調査等を整理・分析して、地域の現状、問題点・課題点を把握した。 ・アンケート調査、利用者ヒアリング調査を実施して、日常の移動実態や利用者ニーズ、潜在的利用者のニーズ等を把握した。 ・調査結果を取りまとめて、持続可能な公共交通を維持していくため、適切な公共交通ネットワークや運行形態等の方向性を検討する。 ・地域公共交通網形成計画(素案)を取りまとめて、関係機関との協議・調整を経て、地域公共交通網形成計画(案)とする。</p>	<p>A</p> <p>計画どおり事業は適切に実施された。 (実施される予定である。)</p> <p>・地域や交通事業者等を対象としたヒアリング調査を実施して、問題点・課題点の把握に努めている。これからも継続的に実施していくことで、効果的な事業展開につなげていく。 ・現在、調査結果及び地域公共交通網形成計画(素案)を取りまとめている。今後、協議会での協議、パブリックコメント手続等を経て、地域公共交通網形成計画(案)とする。</p>	<p>③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針</p> <p>・これまでの公共交通施策は、民間事業を補完する目的で導入したデマンド交通を中心としたものであったが、その一方で路線バス、市内循環バスといった地域のバス事業は全体として利用者が減少傾向にある。将来にわたって持続可能な公共交通を維持していくため、民間事業との連携や財政的な負担軽減を考慮して効率的かつ利便性の高い適切な公共交通ネットワークや運行形態等の方向性を検討する。 ・それぞれの公共交通の役割・機能を明確にして、地域・交通事業者・行政がそれぞれの立場を尊重しながら連携して改善等に取り組むことで、地域全体の公共交通の活性化を図る。</p> <p>・策定された地域公共交通網形成計画に基づいて、次年度からの生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)を策定していく(継続して地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金を活用していく。) ・策定された地域公共交通網形成計画に基づく公共交通ネットワークの形成を目指して、地域公共交通再編実施計画の策定に向けた具体的な事業展開を推進していく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 大多喜町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】 ①公共交通に関する現状把握 ②地域住民ニーズの把握 ・町民アンケート調査 ・公共交通利用者ヒアリング調査 ・高校生、大学生アンケート調査 ・地域住民意見交換会(5地域) ③地域に適した交通体系の検討</p> <p>【結果概要】 調査結果に基づき公共交通の抱える課題や問題点の整理を行い、地域公共交通網形成に係る基本方針を導き出した。 また、この基本方針に基づき、実施していく事業を設定し大多喜町地域公共交通網形成計画(案)としてとりまとめた。</p>	<p>A</p> <p>当初計画どおり「既存データの分析」や「アンケート調査」「意見交換会による町民ニーズ把握」「関係者ヒアリング等」予定事業は適切に実施しています。</p> <p>なお、本書作成段階では計画(素案)の協議にとどまっているため、計画(案)についてのパブリックコメント及び大多喜町地域公共交通網形成計画の最終案のとりまとめを3月末までに行う予定です。</p>	<p>調査結果から、交通不便地域やサービス水準の低い昼夜時間帯への対応、既存路線の一部見直し、高速バス停や主要鉄道駅の交通結節機能の強化等による利便性向上課題と考えられる。 ついては、地域住民や関係機関と協働により解決策を検討し、取り組み可能な事業から実施する。</p> <p>【実施事業内容】 ○路線バスのルート変更を含めた再編成に係る交通事業者との協議 ○公共交通の総合的情報の提供 ○山間部等交通空白地域への新たな交通の検討 ○地域が運行主体となる持続可能なシステムの導入検討 ○交通結節点の整備の検討 ○観光交通の見直し</p> <p>地域公共交通確保維持改善事業(地域幹線系統、地域内フィーダー系統)及び地域公共交通調査等事業(再編計画策定事業、計画推進事業)を平成28年度以降順次実施予定</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 君津市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
公共交通の現状と課題の整理及び市民アンケート調査、利用者ヒアリング調査等を実施し、君津市地域公共交通網形成計画(素案)の取りまとめを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施される見込み ※君津市地域公共交通網形成計画の策定は3月予定	生活交通確保維持改善計画に基づき、小櫃・上総地区におけるデマンドタクシーの運行を継続する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名: 甲州市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<ul style="list-style-type: none"> ・対象地域の現況調査 ・上位計画把握 ・対象地域住民の移動実態分析 ・対象地域公共交通の問題点・課題の整理 ・対象地域における公共交通網の方向性・基本方針【検討中】 <li style="padding-left: 20px;">中心市街地への利便性向上、中心市街地の回遊性の向上、公共交通の利用促進 ・交通会議の開催・審議【実施予定】 ・公共交通網形成計画のとりまとめ【実施予定】 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>事業については適切に実施しており、3月末には甲州市地域公共交通網形成計画が策定される見込み</p>	<p>計画策定事業として策定する甲州市地域公共交通網形成計画に基づき、市民バス及びデマンドバスの再編を実施するための甲州市地域公共交通再編実施計画を策定していく。</p> <p>なお、現時点において再編実施計画策定のための補助申請の予定はない。</p>

平成27年度 地域公共交通再編推進事業（再編計画策定事業）一覽

【地域公共交通再編推進事業(再編計画策定事業)】

都県	市町村	協議会名
茨城県	常陸太田市	常陸太田市地域公共交通活性化協議会
埼玉県	東秩父村	東秩父村地域公共交通活性化協議会
千葉県	南房総市	南房総市地域公共交通活性化協議会

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:常陸太田市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(再編計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【調査の内容】</p> <p>1. 公共交通の利用実態・ニーズ把握調査の実施</p> <p>①既存資料及びデータの収集・整理・分析</p> <p>②交通事業者等ヒアリング調査</p> <p>③市民アンケート調査(1,000人送付、地区(4地区)250人)</p> <p>④市民(移動制約者)へのヒアリング</p> <p>2. 公共交通の現況と課題の整理</p> <p>①地域特性の整理</p> <p>②公共交通の実態把握</p> <p>③公共交通の潜在ニーズ・需要の分析</p> <p>3. 地域公共交通活性化協議会・専門部会の運営支援</p> <p>①資料作成, 議事録作成等</p> <p>②会議への出席</p> <p>【結果概要】</p> <p>○既存資料及びデータの収集・整理・分析等を行い, 地域の公共交通の状況を整理した。</p> <p>○路線バス等のOD調査を実施し, 利用の実態を分析した。</p> <p>○交通事業者へのヒアリングを複数回(6事業者, 12回)実施し, 現在の課題, 今後の再編事業の実施可能性等について把握することができた。</p> <p>○市民アンケート調査(486人回答)の実施により, 市民ニーズを把握することができた。</p> <p>○市民(移動制約者)へのヒアリングの実施により, 真に公共交通を必要としている市民のニーズを把握することができた。</p> <p>○県内一広い当市の地域特性, 公共交通の実態把握及び潜在ニーズ・需要の分析を行った。</p> <p>○市民への説明, パブリックコメントの結果, 今後の協議会での検討等を経て, 今年度中に「常陸太田市地域公共交通網形成計画」を策定する。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された</p>	<p>地域公共交通調査事業(計画策定事業)を活用して今年度策定する「常陸太田市地域公共交通網形成計画」を基に, 同じく今年度中にサービスエリアの重複, サービス水準の地域間における相違等の問題を解決し, 持続可能な公共交通網を再構築するための「常陸太田市地域公共交通再編実施計画」を策定する。平成28年1月から市民への説明会等を開始し, 平成28年5月頃から, バスの乗り方教室等の公共交通利用促進事業を行う。その後, 平成28年10月から再編実施計画に基づいた新たな運行形態での運行の開始を目指す。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:東秩父村地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通再編調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>・村営バス・民間バス双方に乗降客数センサーを設置し、停留所毎の乗降客数ならびに便ごとの輸送実績を調査した。なお、当調査は平成28年3月まで実施することとする。</p> <p>・交通不便地区を対象とした実証運行を実施し、需要の動向を探った。休日においては、観光地へのシャトルバスを運行し、村内観光施設への公共交通でのアクセスを容易にし、一定の成果をあげた。</p>	A	東秩父村地域公共交通再編実施計画策定に向け、必要な調査を実施できている。	平成26年度に策定された「東秩父村地域公共交通網形成計画」に、施設整備を行う和紙の里を交通の結末点とし、住民の日常生活の機能の確保・向上と来訪者の観光需要による公共交通の維持確保を実現するため、今回の乗降客調査と実証運行の結果を踏まえ計画を策定する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

協議会名:南房総市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通再編推進事業(再編計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>これまで協議会で取り組んだ実証運行や調査事業のデータや地域公共交通網形成計画を踏まえ、利用者や交通事業者等の関係者へ再編実施地域に係る状況についてヒアリングを実施し、再編が必要となる地域、再編するにあたって適した交通体系の検討を行っている。</p> <p>さらに、利用者や交通事業者等の関係者へ実施する事業の取組案についてヒアリングを実施し、意見を反映させるとともに合意形成を図っていく。</p>	A	<p>既存データの活用や地域公共交通網形成計画を踏まえ、関係者ヒアリングなどを適切に実施し、公共交通の再編に向けた計画の取りまとめを行っている。</p>	<p>合併による恩恵で拡充されている財政措置も将来的には縮小されるため、本調査を基に関係者で合意形成を図り、地域にある全てのモードを活用し、持続可能で効率的な公共交通網を形成する。</p>

【平成27年度】地域公共交通調査事業(計画推進事業一覧)

都県	協議会名
茨城県	東海村地域公共交通会議
茨城県	五霞町地域公共交通会議
神奈川県	真鶴町地域公共交通会議
千葉県	南房総市地域公共交通活性化協議会

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名:東海村地域公共交通会議

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>本村における公共交通(JR, 路線バス, デマンドタクシー, タクシー)が一目でわかるマップ付きチラシを作成することにより, 公共交通の利用促進を図るとともに, モビリティマネジメントの観点からの記事も盛り込むことにより, 過度に自動車に依存しない生活を考えるきっかけづくりとする。 なお, 配布については, 全戸配布(3/25)及び各主要施設への配置を予定している。</p>	A	計画に基づき, 適切に実施している。	必要に応じて改定版や簡易版を作成し, 周知を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名:五霞町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>ごかりん号利用者、工業クラブ、交通空白地有償運送利用者、事業所及びふれあい祭りにてアンケート調査を実施し、それぞれのニーズ、要望、意見、現行の課題と問題点等を抽出した。</p> <p>また、バスマップを増刷し各公共機関や駅・病院等に配置するとともに、各種キャンペーン時に配布した。ポスターについても公共交通利用促進ポスターを作成し、公共施設に加え、駅やスーパー、病院等に設置した。</p> <p>さらに、現在試験運行中のため事業者から車両を借り上げて運行しているので、マグネットシートを作成し、車両の前後左右に貼付し、ごかりん号をPRした。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>現在の利用者数の推移では、平成28年10月から本格運行に移行することが見込まれる。</p> <p>各種アンケート調査結果を踏まえて、また、利用状況を分析し、本格運行に向けてルート・ダイヤの検討を実施する。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名:真鶴町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
真鶴町総合交通マップ作成事業 (公共交通情報等の提供) 現在、マップの素案を作成中であり、3月に行われる 交通会議において素案を示し、意見を聴取する。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施している。	町民だけでなく、来訪者にとってもわかりやすく公共交通が利用することができるよう路線図の見せ方を工夫し、平成27年度中に町の公共交通マップを完成させる。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名:南房総市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
地域住民や来訪者に、市内の地域公共交通の運行内容をわかりやすく伝えるため、路線網・路線間の接続状況・運賃などを盛り込んだ公共交通マップを作成している。 全戸配布及び各主要施設における配布を予定している。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施している。	今年度以降においても、運行ダイヤ、運賃の変更等必要に応じて順次改定を実施していく。

【平成27年度】地域公共交通再編推進事業(再編計画推進事業一覧)

都県	協議会名
埼玉県	上尾市地域公共交通活性化協議会

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名:上尾市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通再編推進事業(再編計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>上尾市市内循環バス(大石桶川線)及び桶川市市内循環バス全線(東循環ルート、西循環ルート、東西循環(外回り)ルート、東西循環(内回り)ルート)を対象に、相互の乗り継ぎ先の運賃を無料とした割引乗車券を作成した。 また、割引乗車券の使用について周知するためのリーフレットを合わせて作成した。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>今後、循環バス同士の時刻の調整等を行うことによって、上尾市と桶川市間のバス移動の拡充、円滑化により、広域的な地域公共交通網の形成の促進を図っていく。</p>